

50  
2019  
SECURITY

特集

## SECURITY 50 2019

### サイバーセキュリティ

暗号化、セキュア、ハッキング防止

### モバイルアクセス

いつでもどこでも映像監視が可能

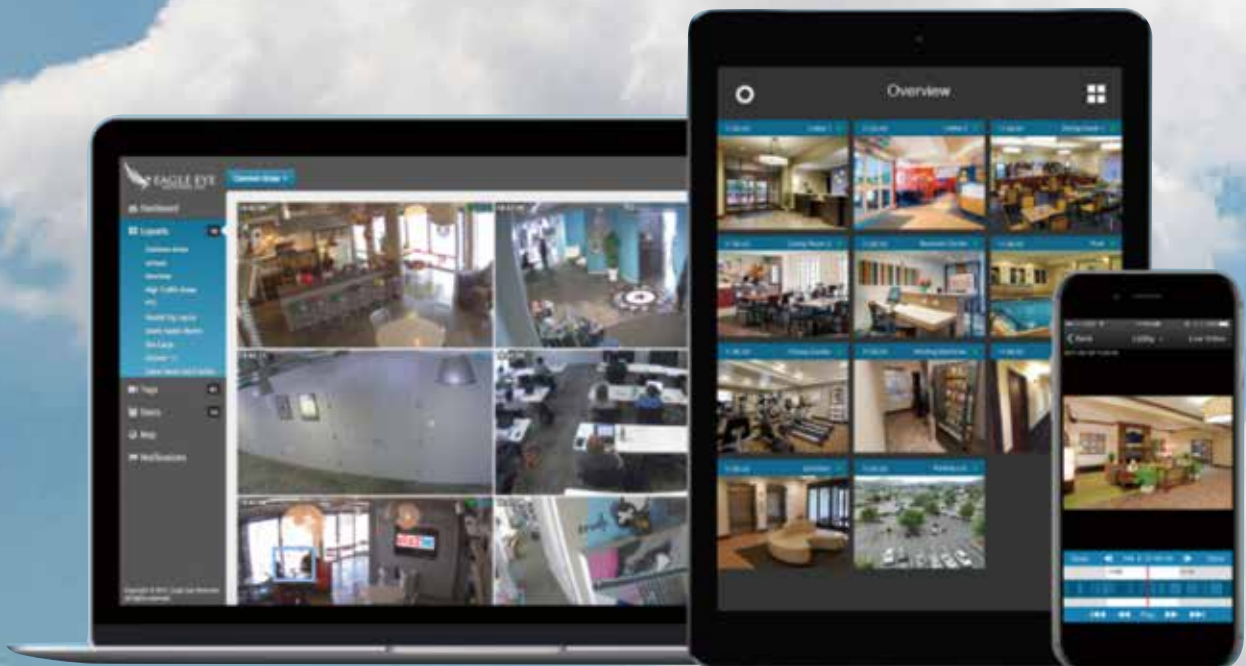
### 常に最新

指先ひとつでいつでも使える最新機能

### 将来を見据えた設計

拡張性を備えたスケーラブルな設計

ワールドワイドNo.1のクラウド映像監視  
**Eagle Eye Cloud VMS**





# AI eiROKUソリューション



サッカー、ラグビー、バスケット、バレーボールなどの  
**ボールを自動追尾**します。

高性能PTZカメラをモバイル用にカスタマイズしてお届けいたします。

POE  
インジェクタ

370Wh 大容量  
バッテリー

- 低コスト運用ライブストリーミング
- プレイ内容の事後分析用途
- モバイル運用でどこでも参上

「Sports tracking」モジュールは、人工知能と深層機械学習に基づいています。

システムの構築にはeiROKU Proパッケージライセンスとオプションの「スポーツ追跡」モジュールオプションが必要です。



謹賀新年  
今年もよろしくお願ひ申し上げます。



今日の世界では、カメラは監視だけでなく分析にも使用できます。多機能「eiROKU」ソフトウェアとその知的モジュールを使用して、マーケティング情報を分析および収集するためのビデオ監視システムを簡単にセットアップできます。

「**Crowd Detector**」モジュールは、**人工知能と深層機械学習に基づいています**。カメラの視野内の人を自動的に数えることができます。

このモジュールは、地下鉄、バス、路面電車、電車などの公共交通機関の周りの乗客に使用できます。公共交通機関にとって、このようなモジュールは、毎日の乗客の流れを分析するという点でかけがえのないものになります。

また、「**群衆検出器**」を使用して、オープンスペースでのソーシャルイベントの参加者数を検出できます。コンサートまたは大規模な会議。

訪問者の数を分析すると、顧客の流れに関する情報を提供し、特定のマーケティング戦略が成功したかどうかを確認できます。また、モールでのコンサートや社交イベントの広告に関しては、このような分析は非常に役立ちます。

「**混雑検知器**」モジュールは、ビジネスにも使用できます。動的な警備対応への応用。

このモジュールは、店内のレジで待ち行列に入っている人数を判断し、レジの仕事の評価できます。特定の広告の成功に関するマーケティング情報を収集するために、バナーや展示スタンドの隣に立っている人を検出できます。これにより、高品質のマーケティングのみに投資することでお金を節約できます。

システムの構築には、eiROKU Proパッケージライセンスとオプションの「**Crowd Detector**」モジュールオプションが必要です。

## FAQ

**Q1.** 既存のカメラ監視設備(VMS NVRなど)で利用することは可能ですか？

**A1.** 既存に影響を与えることなく、スムーズに対応可能です。

**Q2.** 条件でトリガされたアラームを録画、通知することはできますか？

**A2.** **プリ**(アラームの事前) **ポスト**(その後の一定期間)で●**録画**します。メール、SMS(ショートメール)やRESTful Http CGIなどを利用可。

## 目次

## 特集

SECURITY 50 2019 14 - 32

## 導入事例

SHIPS 33 - 35

## イベント情報

展示会、プライベートショー日程 36



|            |         |
|------------|---------|
| IPVMダイジェスト | 6 - 9   |
| 産業ニュース     | 10 - 11 |
| 新製品情報      | 12 - 13 |
| 読者の声       | 37      |

## 広告索引

| 広告主名 (ABC順)   | 掲載ページ   |
|---------------|---------|
| イーグルアイネットワークス | 表一、表紙解説 |
| IDIS          | 3       |
| ジャバテル         | 表二見開き   |
| 日本経済新聞社       | 表四      |

## 次号案内 2020年 3/4月号 (3月2日発行予定)

(誌面の都合上、変更になることがあります)

## 特集

小売業のセキュリティ

**a&s JAPAN** ©ASJ合同会社 2020年 1-2月号 No.74  
The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

発行人 小森堅司 DTP サンフィール

a&s JAPANは、Messe Frankfurt New Era Media発行のa&s Internationalをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権の特約、およびIPVMの抄訳記事掲載の承諾を得て発行するセキュリティ国際情報誌です。

## ASJ合同会社

Advanced Security Journal LLC

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1ウィン神田ビル10階

電話：03-6206-0448 FAX：03-6206-0452

## ■広告に関するお問い合わせは

E-mail: [komori@asj-corp.jp](mailto:komori@asj-corp.jp)

## ■購読に関するお問い合わせは

E-mail: [info@asj-corp.jp](mailto:info@asj-corp.jp)

## ■記事情報提供に関するお問い合わせは

E-mail: [info@asj-corp.jp](mailto:info@asj-corp.jp)

## ■DM代行サービスおよび電子メール配信サービス

当社では、企業の依頼によりDMまたは電子メールで情報をお届けすることがあります。これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を当該企業には一切公開しておりません。



## The Perfect Fit for Luxury Retail

### 比類なき映像技術で優れたパフォーマンスを実現

IDISのビデオソリューションは高級ジュエリーショップからデザイナーズ・ファッションブティック、そして世界中の高級ショップにおいて信頼あるセキュリティを提供します。IDISは、サイバーセキュリティの最先端の技術を使用して信頼性の高いエンドツーエンド(E2E)ソリューションを提供します。

新製品の2MPマイクロドームカメラや受賞歴のあるSuper Fisheyeカメラによる画像分析、NVRそしてVMSソリューションに至りあらゆるニーズにお応えします。



商品に関するお問い合わせは  
IDIS Co.,Ltd 日本正規代理店 株式会社セキュア secureinc.co.jp

東京本社 | 東京都新宿区西新宿2丁目6-1 新宿住友ビル 20F  
TEL.03-6911-0660 FAX.03-6911-0664

**IDIS**  
One Solution. One Company.

**SÉCURE**

[www.idisglobal.com](http://www.idisglobal.com)



## Eagle Eye Cloud VMS ワールドワイドNo.1のクラウド映像監視

Eagle Eye Cloud VMSは100%クラウド上で管理されており、モバイルやWebブラウザで管理可能。保存期間や利用用途に合わせて柔軟にご利用いただけます。

### そもそもクラウドとは？

クラウドはインターネットを介して提供されるサービスです。例えば、イーグルアイネットワークスでは、監視カメラの録画データが国内のデータセンターにインターネット経由で保存されます。保存されたデータにはPCやスマートフォンでどこからでもアクセスできます。既に多くの方が日常生活でもクラウドを使用しておられます。メール、オンラインバンキング、お気に入りのテレビや音楽ストリーミングサービスなどが正にクラウドサービスです。

一般的な  
クラウドサービスの例



### クラウドに録画データを保存すべき理由は？

クラウドでの録画保存は主にデータ保全の面から望ましい選択と言えます。

クラウドでは、サーバーなどの機器故障リスクが低いです。

特に、イーグルアイネットワークスでは三重の冗長性を提供し、ハード故障によるデータ損失のリスクを一層低減しています。火災やその他の自然災害などの物理的な脅威からも保護されています。

### セキュリティは大丈夫・・・？

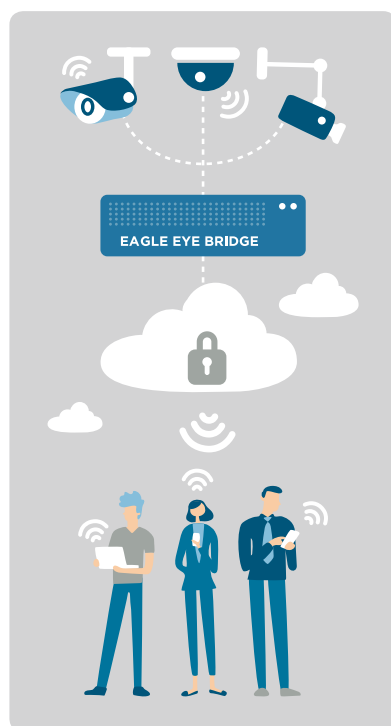
イーグルアイネットワークスでは録画データ盗難のリスクを最小化するサイバーセキュリティ対策が施されています。

- インバウンド通信は許可されていません。
- カメラはインターネットから隔離されています。
- アプライアンスはポート開放されません。
- カメラのマルウェアを隔離します。
- 映像データは暗号化されます。

### 費用が高いのでは・・・？

既存システムと比べて、むしろコスト削減できる可能性が高いです。

- 購入するソフトウェアや保守すべきサーバーはありません。
- サイバーセキュリティやネットワークに精通したIT担当者を雇う必要がありません。
- 先行投資はわずか、必要な分、使用した分だけサービス料金を支払う仕組みです。
- しかも、ソフトウェアや機能は無料で自動更新、もしくはアップグレードされます。





### サイバーセキュリティ

暗号化、セキュア、ハッキング防止

### モバイルアクセス

いつでもどこでも映像監視が可能

### 常に最新

指先ひとつでいつでも使える最新機能

### 将来を見据えた設計

拡張性を備えたスケーラブルな設計

## イーグルアイネットワークスについて

イーグルアイネットワークスは2012年に設立された米国 Eagle Eye Networks Inc.の日本法人で、クラウド映像監視ソリューションのリーディングプロバイダです。

Eagle Eye Cloud VMSは、クラウドとオンプレミスによる記録、金融業界でも通用するレベルのセキュリティ暗号化機能を搭載し、アナログカメラ、デジタルカメラのどちらにも対応しています。イーグルアイネットワークスは販売パートナー様を通じて拡販を広げています。クラウド映像監視ソリューションはお客様のビジネスをよりセキュアに、そして運用を最適化する機能を搭載しています。



## Eagle Eye Cloud VMSを体感していただけます

イーグルアイネットワークスは、リテールテックJAPAN 2020でAI・サイバーセキュリティ・映像解析で向上する店舗の安全と業務効率をテーマにEagle Eye Cloud VMSと統合されたソリューションを展示します。

株式会社ブレン・カンパニーによる『ActiveBrain-EYES』カメラ映像とPOSジャーナルデータをクラウド上でリンクして、どこからでも、見たい会計の明細と動画と紐づけが可能です。

株式会社イグアスによる『SwiftSensors』Swift Sensorsは、Plug and Playのクラウド型センサーシステムです。Wirelessセンサーで配線は不要、CLOUDダッシュボードでどこからでも監視が行えます。

株式会社シーネットコネクタサービスによる『ci.Superior/GAZOQS 作業映像一発検索システム』

梱包作業時の動画を一発検索し、商品の状況、作業手順等、現場で発生した事実をピンポイントの動画を見て確認・検証する事ができます。

是非イーグルアイネットワークスブース(RT4305)までお越し下さい。

### リテールテックJAPAN 2020 開催概要

会 期: 2020年3月3日(火)~6日(金)  
開 場: 10:00 - 17:00 最終日は16:30まで  
会 場: 幕張メッセ  
主 催: 日本経済新聞社  
U R L: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

### イーグルアイネットワークス株式会社

〒150-0034  
東京都渋谷区代官山8-5  
代官山8.5 ビル4階  
TEL: 03-6868-5527  
E-MAIL: APACsales@een.com



# IPVM URL: <https://ipvm.com/>

IPVMは、セキュリティと映像監視に関する世界有数の情報提供サイト。

## 【特徴】

- 5,000件超のセキュリティ技術に関する報告
- 550件超のセキュリティおよび主要映像監視製品のテスト
- 豊富なソフトウェア・ツールによる評価とテスト
- 映像監視関係者向け教育と講座用情報の提供。
- メンバーからのコメントを含めた活発なコミュニティの形成

## 【有料メンバー】

- 100カ国超1万人以上のセキュリティ業界従事者、関係者

## 【スタッフ】

- エンジニア、開発者、セキュリティ・システム構築者、サポート・マネージャなど総勢11名

## 【掲載許諾】

本誌ではIPVMの許諾を得て、ウェブ上で無料閲覧することができる内容だけを掲載しています。閲覧するにはIPVMとの有料メンバー契約が必要です。IPVMに掲載されている内容は、一切無断転載です。



## 2020年映像監視カメラ市場概況

イーサン・エース&ジョン・ホノヴィッチ 著

<https://ipvm.com/reports/cameras-2020>

IPVMは、毎年業界をリードするテストとレポートに基づいて、映像監視カメラの主な進歩と変革について説明している。

2020年版の内容は下記の通り

- ディープ・ラーニング/AI最大の技術傾向
- 中国/米国の紛争
- 真のWDRカメラ共通点
- ありふれた「超低照度」
- 成長する白色光照明
- マルチ・イメージ・センサ成長の減速
- カメラ設置の容易さの改善
- ゆっくりと進化する解像度
- 最大解像度成長の限界
- 低下するHDアナログの関連性
- サイバーセキュリティへの懸念



## アーカス社CEOがGDPRの虚偽の主張を撤回。

### Dahua社とマイルストーン社の主張を検証

ジョン・ホノヴィッチ&チャールズ・ロレット 著

<https://ipvm.com/reports/arcules-gdpr>

アーカス社CEOは、IPVMレポート(アーカス社 CEOが「セキュリティ違反」で脅迫)がこの懸念を提起した後、組織が「完全に準拠したGDPR企業」であるという虚偽の主張を撤回した。

テクノロジー企業がEU政府のGDPR適合性について偽って不正な競争上の優位性を得ようとするため、GDPRの虚偽の主張は今なお残る継続的な問題である。

本稿では、Arcules社の問題と、業界の主要参加企業であるマイルストーン社やDahua社を含む他の監視製品メーカーの問題を検証する。

アーカス社CEOが「セキュリティ違反で」脅迫の原文

<https://ipvm.com/reports/arcules-breach>

## 【記事の要約】

- アーカス社社員が主張したのは「セキュリティ違反」
- アーカス社CEOの対応と発生事由の説明
- 新しいWSaaSセキュリティの懸念、VMSでは不可能
- 「アーカス社は完全に準拠したGDPR企業」と虚偽の主張
- アーカス社CEOの法的措置の脅威
- アーカス社の問題





## 2020年の予測

IPVMチーム 著

<https://ipvm.com/reports/outlook-2020>

最新のIPVM調査によると、全般にシステム構築者は2020年の市況を肯定的に予測している。これは、2018年および2019年に続いてシステム構築者の受け止め方の傾向が続いていることを示している。

本稿では、政治がセキュリティ産業界に影響を与えると評するシステム構築者が顕著に増加しているなど、多くのシステム構築者の反応など好況感の主な理由を検証する。

### ■肯定派

#### ●成長する顧客ベース

肯定的な見通しを反映したシステム構築者の反応は、一般的に経済の全体的な強さと既存の顧客の成長を指摘している。

#### ●政治/中国の影響が混在

米国の選挙、米国/中国の貿易戦争、Hikvision社とDahua社に対する対応の影響は、2020年の市況に最も大きな影響を与えると予想し、2019年の新技術への高まり以上の反応だ。

### ■中間派

## ペルコ社は「ブルーバック」状態

ジョン・ホノヴィッチ 著

<https://ipvm.com/reports/pelco-blue>

ペルコ社新CEOカート・タカハシ氏はImperial Capital Security Investor Conferenceでのプレゼンテーションで、同社がブルーバック状態と表現した。

本稿では、Pelco社CEOの発言内容、同社の戦略そして同社で成功する可能性を検証する。

### 【ブルーバック状態】

ペルコ社は、コーポレート・カラーの青色を2000年代半ばの同社所有のジェット機や百万ドルのパーティー開催まで復活することはない。事実、同社新CEOは詳細な発言でそれを主張していなかった。残念ながら、スローガン自体は誤解される可能性がある。

さらに悪いことに、同社はこの10年間に同様の発言を数回主張している。2014年にはペルコ社に「ペルコが戻ってきた」と宣言した。

### 【基本に戻る】

新CEOが強調したことは、基本を取り戻し、顧客サービスを改善することを優先することだった。

### ●競争の激化

5人に1人のシステム構築者は、2020年に現状維持を期待しており、新しいシステム構築者との競争の激化と、新しい先進技術の影響が損なわれる可能性があることを示している。

### ■否定派

#### ●DIYの浸透とその価格圧力

より安価な製品、競争、DIYも、政治的な懸念に加えて、マイナスの影響として注目されました。

#### ●AIと解析への評価

システム構築者は2020年の最大の傾向として、圧倒的にAIと映像解析を指摘しているが、2020年の成長理由として挙げたのはほんの一握りだった。

#### ●米国外の政治的要因/ブレグジットの懸念

米国外では、英国のブレグジットを含む政治問題が2020年にマイナスの影響を与えるとの回答があった。



### ■顧客サービス

最も注目すべきことは、CEOは、カスタマー・サービスの改善の優先順位を繰り返し強調した。過去において、ペルコ・ブランドは「カスタマー・エクスペリエンスのゴールド・スタンダード」でだったので、最優先事項はカスタマー・サービスを取り戻すことだった。

### ■事業計画

#### ●合理的-製品の前のカスタマー・サービス

#### ●ペルコ社は今や市場リーダーではない

#### ●大きな顧客がまだ存在する

#### ●顧客に手を差し伸べる

#### ●買収は可能か?

#### ●見通し-限定的な積極性



## IPカメラ導入容易度対決2019

AVIGILON, アクシス, ボッシュ, Dahua, Hanwha, Hikvision, Uniview, VIVOTEK

ジョン・スキャンロン 著

<https://ipvm.com/reports/installability-shootout>

IPVMは2019年新型16を含む下記の計35台のモデルをテストした。

- Axis 新P32シリーズ
- Axis Q36シリーズ
- Bosch Flexidome IP 3000i IR and 8000i
- Dahua Liteシリーズ
- Dahua Ultraシリーズ
- Dahua Proシリーズ
- Hanwha Wisenet X
- Hanwha Wisenet L
- Hanwha Wisenet X Plus
- Hikvision Performance Varifocal (DS-2CD27X5FHWD-IZS)
- Hikvision Smartシリーズ (DS-2CD55XXG0-IZHS)
- Hikvision Valueシリーズ Fixed (DS-2CD21X3G1-I)
- Hikvision Valueシリーズ Varifocal (DS-2CD27X3G1-IZS)
- Uniview Pro
- VIVOTEK Sシリーズ

この映像概要ではテスト内容を説明している。さらに、PTRZ(パン/チルト/ロール/ズーム)位置決め、コンジット・エントリ、スナッ

プイン・カメラボディなどの複数の新機能を含むテストに拡張した。また、IPVMメンバーが提案した主要なインストール機能を調査した。カメラ・インストールの最悪機能とカメラ・インストール簡単化用の主要機能を参照いただきたい。

- カメラにはケーブルホイップがあるか?管理は簡単か?
- 耐候性ガasketは所定の位置に収まるか、ぶら下がるか?
- カメラを標準のバックボックスにマウントできるか?
- ジナルの調整はどれくらい簡単で正確か、調整中はそのままか?
- カメラにインストール・テンプレートが含まれているか?
- カメラにサービス・モニタ接続用映像出力が装備されているか?
- ドーム/ハウジングは、安全網/ケーブルで接続されているか?
- ハウジングのネジは簡単に抜け落ちないか?
- カメラには乾燥剤またはその他の除湿装置が含まれているか?
- プラグインなしで、すべてのブラウザでカメラのWebインタフェイスが開くか?
- コンジット・エントリはどのくらい便利か?
- カメラ本体はスナップインまたはネジを使用しているか?



## IPカメラ・ブラウザのサポート:壊れているか/動作するか

イーサン・エース&ジョン・スキャンラン 著

<https://ipvm.com/reports/surveillance-browser-support-2019>

長年にわたり、IPカメラはActiveXコントロールに依存していたが、そのセキュリティ上の欠陥は10年以上も知られている。幸いなことに、これは改善されており、より多くのメーカーがそのようなプラグインの要件を廃止している。しかし、多くのユーザはまだ使用している。本稿では、どのメーカーがプラグインなしでサポートしており、どのメーカーがまだプラグインを必要としているのかを見て、最近のIPカメラ・インストール可能性対決2019の一部として30以上のモデルをテストした。

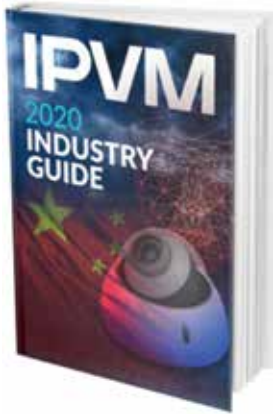
### ■壊れているブラウザ

実際的な問題は、これらのプラグインのサポートがブラウザでますます減少していることだ。つまり、IPカメラがそれらを必要とする場合、映像や基本的懸念は表示されない。詳細については、

Integrator Web Browser / ActiveX Usage Statisticsを参照していただきたい。

- 2019で改善されたブラウザ・サポート
- 中国メーカーは遅れているが、Dahua社とHikvision社は改善
- プラグインの危険性:マルウェア
- プラグインなしのH.264/H.265サポート
- 2019で改善されたブラウザ・サポート

35モデルのうち、ブラウザでライブ映像表示に必要なプラグインは6つだけだった。ただし、プラグインを必要としない全てのカメラでブラウザにH.264 / H.265ビデオが表示されるわけではなく、Avigilon、Vivotek、および一部のBoschモデルではMJPEGのみが表示される。



## 2020年版 映像監視産業ガイド

IPVMチーム

<https://ipvm.com/reports/guide-2020>

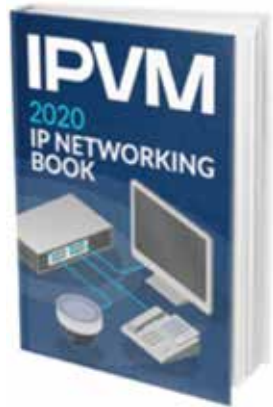
300ページにわたる2020年版映像監視産業ガイドでは、主要なイベントと映像監視市場の将来について説明している。グループメンバーはPDFコピーを電子メールで送信できます。個人メ

ンバーは全て以下のリンクにアクセスできます。2019年に2つの重大な混乱を経験した(米国政府の禁止が法律になったことと、Dahua社およびHikvision社の人権侵害に対する制裁が施行されたこと)で、AI映像解析は2年間に大きく前進した。

中国メーカーに対する反発が新たな段階に達したため、業界はIPVMガイドは、主要な市場での出来事と当事者の背景と分析の問題を説明し、主要な市場での出来事とその背景と分析を提供している。

メンバーは全て以下のリンクにアクセスできます。

中国メーカーに対する反発が新たな段階に達したため、業界は



## 2020年版IPネットワーク指南書 発行

IPVMチーム

<https://ipvm.com/reports/ip-networking-book>

2020年版IPネットワーク指南書は、280ページにわたる詳細なガイドブックで、ITおよび通信技術が現代のセキュリティ・システムにどのように影響するか、特

に2019年以降に更新および拡張された方法を説明している。

この本は、IPネットワーク上で映像監視システムを設計および展開し、IT部門と連携する際に正しい決定を下すための知識と自信を与える。現在、全てのIPVM PROメンバーは、内部でダウンロード可能な280ページ建て電子書籍を取得できる。



## 2020年版アクセス・コントロール指南書 発行

ブライアン・ローズ 著

<https://ipvm.com/reports/access-control-training-book>

本書は、2020年に大幅に更新されたこれまでにない研究とテストに基づいた、包括的なアクセス・コントロールの指南書である。

現在、すべてのIPVM PROメン

●ターンスタイル、回転ドア、駐車場ゲートなどの開口部

●自動ドア管理の統合

●アクセス・コントロール・マントラップの設計

●ドア・クローザーを理解する

●ガラスのドアをロックおよび制御する方法

●安全でない125 kHzカードを交換する最善の方法

●アクセスのための指紋生体認証の現状

●オープン・アクセス・コントローラ概説(軸、HID、イソナス、水銀)

全部で30以上の章が2020年版で更新または追加されている。

### ■本書の構成内容

生命安全の章・7節構成、ドアと施錠の章・13節構成、先進アクセス開閉の章・6節構成、資格情報と読取機の章・13節構成、コントローラと管理ソフトウェアの章・7節、ネットワークとケーブルの章・4節構成、システム設計と特定条件の章・11節構成

バーは、内部でダウンロード可能な40+ページの電子書籍を取得できる。本書は60以上の章で構成され、最新のアクセス・コントロール・システムの最新技術と問題を扱っている。

### ■2020年版向けに更新

2020年版は、次のセクションを含む2019年版の内容から拡張および更新されている。

●モバイル・アクセスの使用と追加

●OSDPについて

●包括的な生命/安全コード

## Acronis



## アクロニス、5nine社を買収

<https://www.acronis.com/ja-jp/pr/2019/12/18-01-24.html>

サイバー・プロテクション企業のアクロニスを買収した5nine社は、Microsoft Hyper-VとAzureのクラウド管理およびセキュリティソリューションのグローバルなプロバイダ。本買収に伴い、5nine社はアクロニスの完全所有の子会社となる。

5nine社はHyper-V向けのエンドツーエンドのクラウド・ソリューションであるHyper-V、およびAzure向けでは世界初であり唯一無二のエージェントレスかつマルチレイヤーのセキュリティソリューションを提供している。

アクロニスは5nine社の先進技術をAcronis Cyber Platformに統合することにより、Acronis Cyber Cloud Solutionsポータルで利用できる新規サービスを創出する。マネージド・サービス・プロバイダー(MSP)やIT企業は5nine社製ソリューションの

活用により、クラウド・サービスの運用を簡便化し、新しいビジネスを創出し、更に顧客の細やかなニーズにも対応することが可能となる。

アクロニスは5nine社との提携により、顧客とパートナー企業に、物理インフラストラクチャや仮想インフラストラクチャのワークロードをAcronis Cyber Infrastructure、Microsoft Azure、もしくはその両方に、従来よりも簡略に移行する手法を提供する。クラウド移行、管理、監視、そして革新的なワークロード管理ツールとプロセスを統合する5nine社の製品を活用することにより、顧客はサイバープロテクションの5つのベクトル、Safety(安全性)、Accessibility(アクセスのしやすさ)、Privacy(プライバシー)、Authenticity(真正性)、Security(セキュリティ)(SAPAS)を全てのデータやアプリケーションまたシステムで確保することが可能となる。

## NEC

## NEC、通信トラフィックを高度に制御する「Traffic Management Solution」のVMware認定を取得

[https://jpn.nec.com/press/201912/20191223\\_01.html](https://jpn.nec.com/press/201912/20191223_01.html)

同社は、通信トラフィックを高度に制御するTraffic Management Solution(TMS)について、VMware社の仮想化環境で動作することを認定する「VMware Ready™ for NFV」を取得した。本認定は、両社ソフトウェアの組み合わせを、詳細な評価を通して動作性を確認するもので、認定された情報はVMware Solution Exchange (以下、VSX)にて公開される。

TMSは、ネットワークの特性やトラフィック状況に応じて最適な通信パラメータを適用する機能や、パケットロスによる再送を制御する機能などにより、5Gにおいて益々重要となる利用者の体感品質向上や通信事業者の効率的なネットワーク運用を

実現する製品。

今回の認定では、グローバルで高い実績を持つVMware仮想化環境でのTMSの運用動作が詳細な検証により確認されている。これにより、通信事業者は安心して導入を進めることができ、スケジュール面においても、サービス開始に向けての期間を短縮し、計画通りのTMS導入とサービス開始が実現できる。また、導入前の段階においても、導入検討に必要な諸条件がVSX上で公開されているため、意思決定プロセスの効率化を図ることが可能となる。



## パナソニックコネクティッドソリューションズ社、ディープ・ラーニングを応用した顔認証技術のAPIを提供開始

<https://news.panasonic.com/jp/press/data/2019/11/jn191125-2/jn191125-2.html>

このAPIは、ディープ・ラーニングを応用した顔認証技術を、クラウドベースでAPIを呼び出すだけで利用できるもの。同社の顔認証技術の大きな特長は、下記の手法を組み合わせたパナソニック独自のアルゴリズムにある。

1. 複数のディープラーニングを融合した顔全体と顔詳細を把握

する特徴量生成手法

2. 撮影環境に応じて誤りを抑制する類似度計算手法

これにより、従来認証が困難であった斜め顔、照明の明暗が強い環境、サングラス・マスクなど一部顔が隠れているような状態でも顔認証を行うことができると同社では説明している。

セキュリティ企業アバストは、2020年のサイバーセキュリティ動向をまとめた「2020年版脅威予測レポート」を発表した。2020年の主なセキュリティトレンドは次の通り。

### ■高度化するPCマルウェアの拡散手法

マルウェアをPCに送り込む方法が進歩し、より高度な方法で脅威が拡散されるようになると予想している。例えば、標的の受信メールを盗み取るによりスパイし、メールに悪意のあるペイロードを挿入して送りつけるといった、Eメールを悪用した形でのマルウェア拡散が予想される。また、エクスプロイトキットやマルウェアが、サプライチェーン攻撃を通して広まっていると指摘し、エクスプロイトキットの復活を予測している。さらに、RDP(リモート・デスクトップ・プロトコル)の脆弱性を悪用して脅威を拡散させるサイバー犯罪者も出現するだろう。

### ■モバイル詐欺とiOSの脆弱性

サブスクリプション詐欺や偽アプリが公式アプリストアに流入すると指摘しており、セキュリティ研究者だけでなくサイバー犯罪者も自らiOSの脆弱性を発見していくと予測している。

### IoT機器がハッカーの標的に

スマート機器は便利だが、ユーザーが自身のプライバシーを管理しきれない原因にもなる。闇市場でデータを販売して金銭的利益を得ようとするサイバー犯罪者は、スマート機器を通し

て大量の顧客データを収集・保存する企業を格好の標的とする。そして、サイバー犯罪者がWindowsのマルウェア・コードをセキュリティ研究者に分析されないよう試みるのと同様、IoTマルウェアもさらに難解なものにし続けると予想している。

さらにスマート機器向けの新しいエクスプロイトが開発されるだろう。IoTマルウェアの開発者は、既に確立されている古いマルウェアを利用し続けるだけでなく、新しいエクスプロイトを利用してより多くの人々を標的としていくと思われる。

そして、マルウェア開発者も、攻撃の基盤を整えている。アバストは、IoTマルウェアではDNS-over-HTTPS、Tor通信、プロキシなど様々な暗号化方式が採用されていることを確認した。マルウェア作成者は、ボットネットをより堅牢なものするため、他の手法も採用していくだろう。

### ■プライバシーはセキュリティの新たなフロンティアに

ビッグデータの分析から利益を得るために、AIのアルゴリズムが実践的に応用されると予測している。ただし、こうした分析においても差分プライバシーの技術が用いられ、個人情報保護されると言う。

なお、本稿はアバストの「2020年版脅威予測レポート」を要約している。

パナソニックは半導体事業から撤退すると正式発表した。2020年6月1日に半導体の製造や販売を手掛ける子会社パナソニックセミコンダクターソリューションズ(PSCS社、京都府長岡京市)の全株式を台湾の半導体メーカー新唐科技(ヌヴォトン・テクノロジー)社に売却する。譲渡価格は2億5000万米ドル。

PSCS社ズの19年3月期の売上高は922億円、営業損益は235億円の赤字だった。

### ■譲渡前事業再編

- 1.パナソニック デバイスシステムテクノ(PIDST)、パナソニック デバイスエンジニアリング(PIDE)の全株式を、会社分割によりPSCSに承継。
- 2.パナソニックと、その子会社が保有する半導体事業関連の知的財産権および契約の一部、半導体事業関連資産・負債の一部を、会社分割または資産譲渡によりPSCSに承継。

- 3.パナソニック出資管理合同会社(PEMJ)が保有するPSCSの全株式を、新たに設立するPEMJの完全子会社に株式譲渡により承継。
- 4.PSCSの半導体関連部品(リードフレーム)事業を会社分割により、新たに設立するPEMJの完全子会社に承継。

### ■譲渡内容

- 1.PEMJは譲渡前事業再編後のPSCS持株会社の全株式をNuvotonに譲渡する。
- 2.シンガポール法人パナソニック アジアパシフィックにおいて、半導体の開発・販売事業を担当する社内カンパニーであるパナソニック デバイスセミコンダクターアジアの事業を、Nuvotonのシンガポール法人に譲渡。
3. パナソニック セミコンダクター蘇州有限会社の半導体事業に係る設備・在庫等をNuvotonの中国法人に譲渡。

## Dahua社、新型デュアルPTZカメラを発売

<https://www.dahuasecurity.com/asia/products/allProducts/4572>



今回発売した製品は、Hunter SDT5Xシリーズカメラ。同シリーズのカメラは、スマート・トラッキング、境界保護、ビデオ・メタデータ、顔認識、その他インテリジェント機能を備え、パノラマカメラとPTZカメラの両方の利点を統合している。

### 【主な特徴】

#### ■強力なデュアルPTZ設計

1台のカメラでより広い範囲でマルチシーン・モニタリングを実現する強力なデュアルPTZシステムを採用し、二重のパフォーマンスを実現している。上のパノラマ・レンズと下の詳細キャプチャ・レンズを装備。両方のレンズを水平および垂直に制御できるため、より広い範囲でモニタリングとスマートトラッキングが可能。

#### ■PFA +オートフォーカス技術を介したスマート・キャプチャとクリアフォーカス

Dahua社が独自開発したPFA +オートフォーカス技術を利用して、ビデオのフォーカシングとズームを同時に実現し、フォーカ

シング時間を大幅に短縮している。また、Dahua Starlight +テクノロジーもサポートしている。

#### ■効率向上とコスト削減に有益なインストール

迅速なインストールとデバッグ機能を備えて軽量構造のため、設置場所の置き換えが一人で行える。これにより利用効率を大幅に改善し、追加コストを削減する。

また、固定レンズと異なり、搭載のパノラマレンズは調整可能で、遠隔制御が可能で、顔画像のキャプチャが向上する。

#### ■スムーズなシーン切り替えで安定した露出

Dahuaが独自開発した予測露出アルゴリズム (PEA) および AE2.0アルゴリズムにより、シーンが正しい位置に回転すると露出が完了し、オートフォーカスとインテリジェント・アルゴリズムの計算時間を長くとれる。さらに、デバッグ・プロセスがスムーズに安定して動作し、ビデオ・キャプチャ中の定期的な露出を実現する。



## ZMP、自動運転警備ロボット「PATORO®」を発表

<https://www.zmp.co.jp/products/patoro>

自動運転警備ロボット PATORO®は、これまでにZMPが開発した低速自動運転モビリティ (CarriRo® Deli、Robocar® Walk) と共通のプラットフォームを採用し、ZMPが得意とする高度な自律移動技術とともに人ととのコミュニケーション機能を有する。

PATORO®はZMP社の製品ラインナップで最もコンパクトなため、屋内での小回りも効くロボットとなり、カメラによる映像監視や記録、騒音や異常音の検知、警告、火災検知など、周辺監視や巡回警備等に必要な機能を搭載している。ビル管理、施

設管理、地域の見回りなどの用途を総てしている。

現在ZMP社が提供している宅配ロボットCarriRo® Deli は屋外環境のほか、オフィスビル内でのエレベーター連携による縦移動など、屋内環境での活用も広がっている。

また移動のパートナーRobocar® Walk は、多数の人々や車両が行き交う歩道や横断歩道など、公道での安全でスムーズな走行実績を積み重ねてきている。これらの技術を応用することで、屋内屋外を問わない多様な環境で警備業務に活用することが可能となる。

自動運転警備ロボットPATORO®は2020年5月からパートナー事業者経由でサービス開始する予定。

# ウェスタンデジタル新製品情報

## WD Blue SN550 NVMe SSD

<https://shop.westerndigital.com/ja-jp/products/internal-drives/wd-blue-sn550-nvme-ssd#WDS250G2B0C>



### 【主な特徴】

#### ■最新のPCに最適なストレージ

NVMe™は主に、パワフルで費用対効果の高いストレージ・ソリューションに利用され、SSDの信頼性を高める。

#### ■パフォーマンスを強化

最大2,400MB/秒の驚異的なシーケンシャル読み取り速度を実現し、どんな作業や制作でも生産性を向上させる。

#### ■小型フォームファクター

薄型の片面M.2 2280 PCIe® Gen3 x4 NVMe™ SSDで、パワフルな小型フォームファクターのPCを構築できる。

#### ■低消費電力でハイパフォーマンス

拡張可能なNVMe™ハードウェアと高速化されたアーキテクチャにより、低消費電力でハイパフォーマンスを実現します。

#### ■性能を強化し高速化

Western Digital®が設計したコントローラとファームウェアを最新の3D NANDと組み合わせ、最適化されて安定した性能を提供する。

#### ■品質と信頼性を強化

ハードウェア、ファームウェア、検証テストに数千時間を費やし、多数の受賞歴を誇るWD Blue™の品質と信頼性を強化している

#### ■5年間の製品保証

#### 【製品ラインナップ】

- 250 GB WDS250G2B0C
- 500 GB WDS500G2B0C
- 1 TB WDS100T2B0C

## 世界初の20TB SMRと18TB CMR HDDのサンプル出荷開始

<https://blogs.dropbox.com/tech/2019/07/smr-what-we-learned-in-our-first-year/>

[https://blog.westerndigital.com/dropbox-continues-innovate-western-digital/?utm\\_medium=pr1&utm\\_source=na&utm\\_campaign=CapEntRelease&utm\\_content=na&utm\\_term=na](https://blog.westerndigital.com/dropbox-continues-innovate-western-digital/?utm_medium=pr1&utm_source=na&utm_campaign=CapEntRelease&utm_content=na&utm_term=na)

本製品は、2019年6月にプレビューを行い、2019年9月に発表した20TB Ultrastar DC HC650 SMR HDDおよび18TB Ultrastar DC HC550 CMR HDD。初めてエネルギー・アシスト磁気記録技術を適用した9ディスク・プラットフォームで、顧客はデータセンター環境をより効率的にプロビジョニング、拡張す

ることが可能となり、比類ない総所有コストを実現することができる。

### 【主な特徴】

■新Ultrastar HDDは当社として初めてエネルギー・アシスト磁気記録技術を適用し、比類ない面記録密度とストレージ効率に加え、ウェスタンデジタルのHelioSeal® Ultrastar HDDで実証された品質と堅牢性を提供

■Ultrastar HDDの新製品は、スペース効率、コスト効率およびエネルギー効率の高いデータセンター構築に向けて、可能な限りのストレージ密度、パフォーマンス、低電力を求める顧客に即時に、そして長期的に優れた総所有コスト(TCO)を提供

■大容量エンタープライズHDDにより、大規模オンラインデータストレージを運用する顧客に最善のTCOを提供

■量産出荷・2020年前半を予定



# 世界セキュリティ企業 上位50社

| 2019年<br>順位 | 2018年<br>順位 | 企業名                         | 本社所在地  | 主要製品               |
|-------------|-------------|-----------------------------|--------|--------------------|
| 1           | 1           | Hikvisionデジタル・テクノロジー        | 中国     | 総合                 |
| 2           | 2           | Dahuaテクノロジー                 | 中国     | 総合                 |
| 3           | 3           | Assa Abloy(アッサ・アブロイ)        | スウェーデン | 入退システム             |
| 4           | 4           | ボッシュ・セキュリティ・システムズ           | ドイツ    | 総合                 |
| 5           | 5           | アクシス・コミュニケーションズ             | スウェーデン | 総合                 |
| 6           | 6           | フリーアー・システムズ                 | 米国     | 映像監視               |
| 7           | -           | Univiewテクノロジー               | 中国     | 映像監視               |
| 8           | 7           | Allegion                    | 米国     | 入退システム             |
| 9           | 9           | Tiandyテクノロジー                | 中国     | 映像監視               |
| 10          | 25          | IDIS                        | 韓国     | 映像監視               |
| 11          | 8           | Hanwhaテックウィン                | 韓国     | 映像監視               |
| 12          | 16          | TKHグループ                     | オランダ   | 総合                 |
| 13          | 11          | アイホン                        | 日本     | 入退システム             |
| 14          | 12          | Infinova                    | 中国     | 映像監視               |
| 15          | 15          | CPプラス                       | インド    | 映像監視               |
| 16          | 17          | Nedap                       | オランダ   | 総合                 |
| 17          | 20          | Kedacom                     | 中国     | 映像監視               |
| 18          | 14          | VIVOTEK                     | 台湾     | 映像監視               |
| 19          | -           | Megviiテクノロジー                | 中国     | 映像監視               |
| 20          | 21          | KOCOM                       | 韓国     | ホームセキュリティ          |
| 21          | 19          | マイルストーン・システムズ               | デンマーク  | 映像監視               |
| 22          | 18          | Raysharp                    | 中国     | 映像監視               |
| 23          | 22          | Commax                      | 韓国     | 入退システム & ホームセキュリティ |
| 24          | 13          | オプテックス                      | 日本     | 侵入検知               |
| 25          | 23          | タムロン                        | 日本     | 映像監視               |
| 26          | 26          | TVTデジタル・テクノロジー              | 中国     | 映像監視               |
| 27          | 24          | Napcoセキュリティ・テクノロジー          | 米国     | 総合                 |
| 28          | 27          | MOBOTIX                     | ドイツ    | 映像監視               |
| 29          | 30          | Suprema                     | 韓国     | 入退システム             |
| 30          | 31          | Fermax                      | スペイン   | 入退システム & ホームセキュリティ |
| 31          | 33          | Identiv                     | 米国     | 入退システム             |
| 32          | 29          | Wanjiaanインタコネクテッド・テクノロジー    | 中国     | 映像監視               |
| 33          | 28          | DynaColor                   | 台湾     | 映像監視               |
| 34          | 32          | Synectics (System Division) | 英国     | 映像監視               |
| 35          | 36          | コースター・テクノロジー                | 米国     | 映像監視               |
| 36          | 38          | C-PRO エレクトロニクス              | 韓国     | 映像監視               |
| 37          | 34          | GeoVision                   | 台湾     | 映像監視               |
| 38          | 39          | IndigoVision                | 英国     | 映像監視               |
| 39          | 46          | Magalセキュリティ・システムズ           | イスラエル  | 総合                 |
| 40          | 41          | Hitronシステムズ                 | 韓国     | 映像監視               |
| 41          | 42          | Viconインダストリーズ               | 米国     | 映像監視               |
| 42          | 45          | Hi Sharpエレクトロニクス            | 台湾     | 映像監視               |
| 43          | 43          | ITXセキュリティ                   | 韓国     | 映像監視               |
| 44          | 35          | Zenoテクノロジー                  | 中国     | 映像監視               |
| 45          | 44          | ACTi                        | 台湾     | 映像監視               |
| 46          | 47          | EverFocusエレクトロニクス           | 台湾     | 映像監視               |
| 47          | 49          | AV TECH                     | 台湾     | 映像監視               |
| 48          | -           | iCATCH                      | 台湾     | 映像監視               |
| 49          | 50          | HUNTエレクトロニクス                | 台湾     | 映像監視               |
| 50          | -           | Everspringインダストリ            | 台湾     | 侵入検知               |



|  | 2018年売上額<br>(百万US\$) | 2017年売上額<br>(百万US\$) | 売上伸び率<br>(2017-2018) | 2018年粗利益額<br>(百万US\$) | 2018年利益率 | 2018年利益額<br>(百万US\$) |
|--|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|----------|----------------------|
|  | 7,038.96             | 6,008.80             | 17.14%               | -                     | -        | -                    |
|  | 3,574.88             | 2,846.59             | 25.58%               | 418.91                | 11.7%    | 391.9                |
|  | 2,897.21             | 2,362.06             | 22.66%               | -                     | -        | -                    |
|  | 2,334.91             | 2,272.41             | 2.75%                | -                     | -        | -                    |
|  | 1,180.94             | 988.46               | 19.47%               | 616.07                | 52.2%    | 116.9                |
|  | 1,057.80             | 1,128.31             | -6.25%               | -                     | -        | -                    |
|  | 614.80               | 468.28               | 31.29%               | -                     | -        | 71.0                 |
|  | 573.66               | 505.72               | 13.43%               | -                     | -        | -                    |
|  | 544.14               | 476.72               | 14.14%               | 54.57                 | 10.0%    | 54.1                 |
|  | 505.43               | 398.17               | 26.94%               | 138.46                | 27.4%    | -                    |
|  | 505.10               | 527.55               | -4.26%               | 236.89                | 46.9%    | -                    |
|  | 457.71               | 421.98               | 8.47%                | -                     | -        | -                    |
|  | 419.63               | 408.54               | 2.71%                | -                     | -        | 20.7                 |
|  | 320.60               | 274.39               | 16.84%               | -                     | -        | -                    |
|  | 229.95               | 169.22               | 35.89%               | 50.35                 | 21.9%    | 9.4                  |
|  | 181.86               | 178.38               | 1.95%                | -                     | -        | -                    |
|  | 175.40               | 131.28               | 33.61%               | -                     | -        | -                    |
|  | 168.23               | 182.62               | -7.88%               | -                     | -        | -                    |
|  | 159.70               | 25.37                | 529.40%              | 103.47                | 64.8%    | -                    |
|  | 148.66               | 130.01               | 14.34%               | 40.63                 | 27.3%    | -                    |
|  | 147.88               | 139.44               | 6.05%                | -                     | -        | -                    |
|  | 144.22               | 140.68               | 2.51%                | -                     | -        | -                    |
|  | 131.21               | 127.38               | 3.01%                | 27.99                 | 21.3%    | -                    |
|  | 130.23               | 126.20               | 3.20%                | -                     | -        | -                    |
|  | 115.36               | 107.11               | 7.70%                | -                     | -        | -                    |
|  | 92.11                | 78.88                | 16.77%               | 0.56                  | 0.6%     | 0.6                  |
|  | 79.74                | 79.44                | 0.39%                | -                     | -        | -                    |
|  | 78.27                | 77.23                | 1.36%                | -                     | -        | 0.5                  |
|  | 77.10                | 67.74                | 13.82%               | 37.63                 | 48.8%    | -                    |
|  | 73.84                | 66.36                | 11.28%               | 42.11                 | 57.0%    | -                    |
|  | 71.99                | 56.40                | 27.64%               | -                     | -        | -                    |
|  | 70.90                | 67.87                | 4.47%                | -                     | -        | -                    |
|  | 68.72                | 73.36                | -6.33%               | 24.52                 | 35.7%    | 9.9                  |
|  | 65.23                | 61.42                | 6.21%                | 5.05                  | 7.7%     | -                    |
|  | 58.91                | 44.27                | 33.07%               | 21.75                 | 36.9%    | -2.9                 |
|  | 54.07                | 46.63                | 15.94%               | 14.96                 | 27.7%    | -                    |
|  | 49.10                | 52.65                | -6.75%               | 16.37                 | 33.4%    | 1.9                  |
|  | 45.96                | 42.10                | 9.18%                | 26.40                 | 57.4%    | -0.4                 |
|  | 37.09                | 30.65                | 21.00%               | -                     | -        | -                    |
|  | 37.04                | 34.14                | 8.52%                | 7.16                  | 19.3%    | -                    |
|  | 27.73                | 26.65                | 4.06%                | 11.2                  | 40.4%    | -                    |
|  | 25.42                | 24.99                | 1.73%                | 5.26                  | 20.7%    | 0.5                  |
|  | 25.14                | 28.25                | -11.02%              | 4.25                  | 16.9%    | -                    |
|  | 21.86                | 48.84                | -55.25%              | -4.65                 | -21.3%   | -4.4                 |
|  | 19.34                | 25.74                | -24.87%              | 7.88                  | 40.7%    | -2.1                 |
|  | 14.08                | 18.84                | -25.28%              | -0.14                 | -1.0%    | -6.1                 |
|  | 11.75                | 12.83                | -8.49%               | -                     | -        | -                    |
|  | 9.53                 | 10.75                | -11.35%              | 1.38                  | 14.4%    | -0.3                 |
|  | 8.19                 | 9.05                 | -9.48%               | 1.84                  | 22.5%    | -0.7                 |
|  | 7.62                 | 11.73                | -35.05%              | -                     | -        | -                    |

# 上位5社の セキュリティ企業が 今後5年間も市場を牽引か

a&sインターナショナルは、2019年版SECURITY50ランキングとレポートを掲載した。本誌編集陣は、2018年の物理セキュリティ製品の売り上げに基づいて、セキュリティ業界で強力な国際的存在を示す企業をランク付けした。

まず、映像監視企業上位5社が昨年とほぼ同じ順位になっていることには少し驚いた。ただし、収益の規模、2017年から2018年の収益成長率、粗利益などの数字を詳細に見ると、強力な市場との接触やパートナーのエコシステムまた技術力に基づいていることから、これらの企業は、今後5年間もセキュリティ業界を牽引していくと思われる。

Hikvision社とDahua社が中国と米国の間の貿易紛争があったにもかかわらず無傷で浮上していることを指摘することは興味深い。政府の事業案件での2つの禁止と制限が設けられたが、米

国企業が両社と事業を行う上で、2018年までの数値ではその効果が出ていないことを示している。実際、資本力の巨大さと中国市場でのセキュリティに対する高い需要により、中国企業の勢力は競合他社を大きく上回った。

本稿では、物理セキュリティ業界の包括的な概要を提供して、技術動向から様々な地域市場の状況に至るまで様々な情報を網羅したので、今年のSECURITY 50の記事をお読みいただきたい。





## 世界のセキュリティ企業 上位10社の順位

### 順位 会社名

- |     |                        |
|-----|------------------------|
| 1.  | Hikvision社デジタル・テクノロジー社 |
| 2.  | Dahuaテクノロジー社           |
| 3.  | ASSA ABLOY社            |
| 4.  | ボッシュ・セキュリティ・システムズ社     |
| 5.  | アクシス・コミュニケーションズ社       |
| 6.  | フリーアール・システムズ社          |
| 7.  | Uniview テクノロジーズ社       |
| 8.  | Allegion社              |
| 9.  | Tiandyテクノロジーズ社         |
| 10. | IDIS社                  |

# 中国企業の成長は 今後5年間で 減速するのか？

直近の10年間は、中国企業のほとんどが最も急速に成長してきた期間である。しかし米国のブラックリストにより、これらの巨大企業の米国およびその他の国での成長に翳りが見えてきた。中国企業が今後5年間も数字面で成長し続けるかには疑問がある。

2019年版SECURITY50では、Hikvisionデジタル・テクノロジー社、Dahuaテクノロジー社、Assa Abloy社、ボッシュ・セキュリティ・システムズ社、アクシス・コミュニケーションズ社の上位5社は記録的な高収益を上げた。これら上位5社の合計で約170億米ドルを生み出し、合計50社の収益の68.4%を占めている。映像監視部門だけみると、前述4社とフリーアール・システム社を加えた上位5社で、150億ドルを生み出した。これは、41社の映像監視分企業の総収益の約74%にあたる。このことから、上位5社が世界のセキュリティ市場を支配していると結論付けることができ、これらの企業が引き続き主導的な地位を維持することは大きな驚きではない。

1位と2位を占めた中国企業2社は既に巨大企業になっている。別の中国企業Uniview テクノロジーズ社は、2017年の4億6,830万ドルから2018年の6億1,480万ドルと31.3%成長し、中国そして世界で3番目に大きい映像監視企業になるという大望を示した。同社は2018年にChina TransInfo社に買収された。上場企業であるChina TransInfo社は、主に複数の地方自治体に輸送およびセキュリティ・システム・ソリューションを提供している。



## 中国でのIPO(Initial Public Offering:新規公開株式)企業が資本を増加

急速に成長している国内市場と政府の奨励に支えられて、米国と現在の貿易紛争に関係なく、セキュリティ業界の中国IPO企業はますます増え続けている。ただし、世界中のほとんどのIPO企業から毎年収集している数字の分析に基づいて判断すると、多くの中国以外の企業にとっては公正な市場競争ではないと言える。

今年のセキュリティ 50リストのトップ20に新たに参入したのはMegvii社テクノロジー社だ。同社は、中国に拠点を置く顔認識技術で知られたAI企業で、評価額が10億ドル以上の未上場スタートアップ企業だ。2017年の収益2,537万ドルから昨年の1億5,970万ドルまで529.4%の成長を達成し、収益成長率で第1位を獲得した。

同社は米国のブラックリストに載っているが、IPOの準備をしている。その他の有名な中国ベースのAI企業であるSense Time社とYITU社も、同様の手順を採用する可能性がある。

## 米国のブラックリスト掲載後も成長を維持

Hikvision社とDahua社は、2017年と比較して17.14%と25.58%の成長率を上げ、それぞれ2018年売上額は70億米ドルと36億米ドルと報告した。特にHikvision社は、2019年第1四半期から第3四半期にかけて、総営業利益が398.4億人民元(約60億米ドル)増加し、前年比17.9%の成長を達成した。

最新の発表によれば、米国は法律で米国の連邦事務所両社の製品を禁止しているだけでなく、米国の「実体リスト」に掲載して、米国企業との取引を制限している。

Hikvision社の売上額は、中国の国内市場が71.53%、海外市場が28.47%を占めている。その後、国内の営業利益は2017年から20.18%増加したが、海外では15.9%だった。これは、国内市場が同社の成長の勢いを維持していることを示している。

注目に値するのは、2019年第1四半期から第3四半期にかけてのDahua社の販売実績164.2億元で、2018年の同時期と比



較して約9.30%しか成長しなかった。

一部の米国のバイヤーは、一般に巨大企業2社や中国企業との連携に関する懸念を認め、その結果VIVOTEK社をはじめとするアジアの他メーカーの収益増加をもたらした。台湾企業であるVIVOTEK社は、2019年第1四半期から第3四半期に34.72%成長して約1億8,960万米ドルを記録した。

一方、中国企業は、現地の需要を満たすために海外市場で安全都市事業案件に取り組んでいる。Dahua社フォー・リクアン会長は次のように述べている。

「特にラテンアメリカやアジア太平洋さらにその他の地域では、安全都市に対する市場の需要が急速に高まっている。事業案件の1つは、1,000台以上のフロントエンド・カメラ、完全な伝送ネットワーク、クラウド・ストレージ・システム、映像管理プラットフォームを含むラテンアメリカの都市に完全な安全都市ソリューション





を提供した。地元の警察が犯罪を解決し、潜在的に危険な人や車を扱うため、車や人間の画像のビッグデータによる早期警戒機能を装備するのを支援している。LEDスクリーン、警察コマンド、派遣システムを含むコマンドセンターの建設により、警察業務の効率が大幅に向上した」。

### 個別市場に深く浸透

しかし、Hikvision社とDahua社の成功は、地域ごとの単なる売上額以上に、進化するための両社の様々な努力が貢献している。

両社は、個別市場向けアプリケーションを採用し、製品/ソリューションの位置付けをセキュリティの位置付けから、効率の向上と運用強化の用途へと再調整した。これらに加えて、AIおよびディープ・ラーニング技術に関する広範な研究開発が、国内および海外市場での成長に後押ししている。これについて、

Hikvisionデジタル・テクノロジー社副社長ケイク・ヤオ氏は次の通り説明している。

「Hikvision社は、個別市場ごとの事業の効率化と自動化のための様々な事業案件に参加しており、特に交通管理と小売事業の情報化で革新的な技術、製品、ソリューションに貢献している。スマート輸送において、AI技術が組み込まれたHikvision社製交通ソリューションのポートフォリオは、リアルタイムの交通問題についてシステム運営者に警告する機能を備えて、標準的な映像監視を変えた。これにより、車線を維持した走行を保ち、交通の流れを維持することに即座に対応できる。小売業では、Hikvision社のAI技術により、小売業者は顧客の流れを明確に把握し、店舗レイアウト、商品を効果的に最適化して販売収益を増やし、チェックアウト待ち時間を短縮してショッピング体験を向上させることができる」。

一方、Dahua社フー会長は「当社は、安全な都市、スマート交通、スマート小売、その他の主要産業向けにカスタマイズされたソリューションを開発した。また、次世代のスマート・アプリケーション・シナリオを満たす一連のスマート・フロントエンドおよびサーバ製品を発売し、Dahua社HOC (Dahua Heart of City)の実装を包括的にサポートしている」と述べている。

### 将来はどうか？

中国企業は海外市場での発展を妨げられている。中国の二大巨人企業が今後5年間高い成長を維持するかどうかは、中国国内市場の売り上げと海外バイヤーの自信にかかっている。



Hikvisionデジタル・テクノロジー社副社長ケイク・ヤオ氏



Dahua社フー・リクアン会長



# 上位50社企業は、 単純平均ながら2桁成長を継続

トップ50社は、単純平均ながら2018年に2桁成長した。米国と中国は、リストに掲載されているほとんどの企業の成長を保証する2つの主要な市場だ。しかし、台湾企業のほとんどは依然として下降曲線を描いている。

上位50社は2018年に単純平均で約16%成長した。全体として、37社が成長を記録し、20社が2桁以上を記録した。これは、これらの高成長企業の一部が示しているように、2018年のセキュリティ業界がそれほど悪くなかったことを裏付けている。

2019年版SECURITY50ランキング内での収益獲得第1位から第10位までの企業は、Megviiテクノロジー社、CPプラス社、Kedacom社、コースター・テクノロジーズ社、Univiewテクノロジーズ社、Identiv社、IDIS社、Dahua社、ASSA ABLOY社そしてMagal社だ。IDIS社のランキングは昨年の25位から10位まで急上昇した。

ASSA ABLOYの米国部門は9%成長した。同社財務報告書で、同社は次のように記載している。「米国では、民間および民間の顧客市場だけでなく、商業および機関顧客分野の両方で電気機械式ロックが非常に成長した。材料費の増加にもかかわらず、収益性は引き続き堅調だった。

Magalセキュリティ・システムズ社CEOドゥロル・シャロン氏は「米国のセキュリティ・システム市場は、多くの企業が経験した2017年の短期的な減速から回復し、2018年に好調な業績に戻った」と語っている。

アリコント・ヴィジョン/コースター・テクノロジーズ社マーケティング担当副社長ジェフ・ホイットニー氏は、「セキュリティ製品、ソリューション、および先端技術の需要は非常に高く、その結果、複数の市場の需要が増加している。当社の場合、幅広い分野でメイド・イン・アメリカと他の世界クラスの製品を組

み合わせることで、多くの分野で成長を続けている」と述べている。

個別市場で見ると、全ての主要な業種でも成長が見られた。

Identiv社部長マーク・アレン氏は「2018年は教育機関だけでなく、連邦政府や州政府そして地方政府の複数のレベルで、ヒルシュの物理的アクセス製品ラインに対する需要が高まった。3VRビデオ・インテリジェンス・ソリューションとデータ解析では、小売業と銀行業が急増した。Webベースのアクセス制御管理ソリューションである「リバティ」は、主に商業の中小企業、小売業、および小規模の新興企業からの関心を集めたが、ソフトウェア定義アーキテクチャ(SDA)に基づくFreedomへの関心は、IT、エンタープライズ、幼稚園から高校までの学校システム、ハイテクの先見性のある先見の明のある企業が関心を持った」と述べている。

さらに重要なことは、ますます多くのベンダーが様々な分野でセキュリティ以外の用途の事業案件に取り組んでおり、エンドユーザがビジネス情報または管理効率を達成するのを支援している。

アクシス・コミュニケーションズ社CEO兼社長レイ・モーリソン氏は、「当社が注力している最大の業種の1つは小売部門だ。監視ソリューションの需要は、セキュリティに対する従来の要求だけでなく、ユーザ・エクスペリエンスと事業全体を改善する用途への要求によっても左右される。安全な(そしてスマートな)都市の開発にも関心が高まっている。一方、カメラが法執行機





関に接続され、警察や他のシステム運営者が都市を安全に保つのに役立つ安全面があるが、効率と持続可能性の側面、例えば、カメラはライブ画像を他のデータソースと接続することにより、交通の流れを調整および最適化するのに役立つ」と話している。

来年に関しては、前述の技術は引き続き人気があり、セキュリティ以外の用途でのセキュリティ機器の使用は引き続き見込

まれている。市場については、メモリー社のレポートによると、2019年から2024年までの物理セキュリティの年平均成長率は10.7%と予測されているため、継続した成長が見込まれている。

しかし、米国が発行した貿易制限措置が、来年上半期に発表される中国企業の2019年の売り上げに本当に打撃を与えるかどうかはまだ分からない。



Identiv社部長マーク・アレン氏



アクシス・コミュニケーションズ社  
CEO兼社長レイ・モーリソン氏



Magalセキュリティ・システムズ社  
CEOドゥロル・シャロン氏



アリコント・ヴィジョン/  
コースター・テクノロジーズ社  
マーケティング担当副社長  
ジェフ・ホイットニー氏



# 旺盛な需要により地域全体で見られる セキュリティ産業の成長

エンドユーザが犯罪やテロリストの活動に常に立ち向かう必要があるため、世界中でセキュリティは依然として成長している。またエンドユーザは、セキュリティ以外の目的にもシステムを使用するようになり、より大きな投資収益率を得ようとしている。

●ウィリアム・バオ 著

全体的に、エンドユーザが使い続けていることによる北米市場の成長が予測できる。そして、この傾向は短期的な景気後退の懸念にもかかわらず継続すると予想されている。EMEAおよびAPACでは、エンドユーザがセキュリティおよびセキュリティを超えた目的の両方でセキュリティに費やし続けるため、成長市場となっている。

## 北米

経済面では北米は近年成長しており、世界銀行は2018年に米国経済が2.9%成長し、2019年は2.5%の成長を予測している。北米のセキュリティ業界の実績は、この成長傾向とほぼ一致している。北米は伝統的にセキュリティ産業従事者にとって最大の地域の1つだ。最近、北米の経済は堅調で、セキュリティ機器への投資を促進している。

フリーアール・システムズ社セキュリティ担当副社長兼部長ダニエル・ガンドラック氏は、「北米市場では5~7%の成長率が見込まれている」と見ている。

Convergintテクノロジーズ社上級副社長マイク・マテス氏は「2018年も引き続き事業の力強い成長が見られた。トップラインでは、オーガニックと買収の両方の成長を含めて25%以上成長した。市場全体の雰囲気は、継続的な成長だった」と述べている。

## 脅威、規制が支出のきっかけ

セキュリティへの懸念は、業界に関係なく、エンドユーザがセキュリティに費やすことを促す主要な力となる。Hanwhaテックウイン米国社販売担当副社長トーマス・クック氏は、「最大の個別市場はK-12(13年間の教育期間)だ。主にこれらの場所を狙撃から守ることが緊急であるため、この分野は急速に成長している。これは北米全体での風潮のため、学校は予防策としてセキュリティを強化している」と話している。

「空港、データセンター、ユーティリティなどのハイエンドの境界保護の顧客は、フェンス・ラインに到達する前に脅威を特定するために、冗長性と網羅範囲の拡大のために長距離サーマル・カメラとレーダ・ソリューションに投資している。ビジネス・ユーザは、遠隔映像監視と映像検証に投資している。これは資産をよりよく保護し、損失を減らすためのソリューションだ。シリコンバレーのノーマンY.ミネタサンホセ国際空港は、境界侵入検知システムにフリーアール・ソリューションを使用した注目すべき案件だ」とガンドラック氏は説明している。

規制は、重要な社会基盤から大麻に至るまで、様々な分野で需要を促進する主要な役割も果たす。マテス氏は「厳しく規制された市場は、引き続きセキュリティ投資の大きな推進力となる。空





港や港湾金融機関やユーティリティは、セキュリティ・システムが影響を与える可能性のある方法で高度に規制されている市場である。これらのユーザは、規制要件を満たすだけでなく、生産的な方法で、よりサイバーに対応したシステムでも実現したいと考えている」と説明している。

「大麻が合衆国およびカナダの多くの州で合法化するにつれて、事業の爆発的な需要が見られる。この部門の厳しいセキュリティ規制も事業の成長を促進している」とクック氏は言う。

セキュリティの目的以上に、北米のエンドユーザは、セキュリティ投資に対する収益を最大化するために、セキュリティ以外のアプリケーションにセキュリティ機器を使用し始めている。この傾向は特に小売業で顕著だ。

マテス氏は、「エンドユーザは、セキュリティだけでなく、運用に関する洞察を提供するために活用できる高度なソリューションをさらに求めている。AIは小売業に影響を与えており、ビジネスへの脅威と同等に顧客へのより深い理解を可能にしている」と話している。

クック氏は「ビジネス・インテリジェンスでセキュリティを使用することを望んでいる主な業種は、出荷、製造、加工プラントなどで、他にも興味がある小売業者だ。小売業者は、買い物中の顧客体験を動的に改善するために解析を使用することが増えている」と語っている。

一方、輸送は、セキュリティ機器を他のシステムと統合して、交通管理とスマート・パーキングを支援するもう一つの分野である。

ガンドラック氏はAcyclicalについて、「これはモビリティを改善するための通行管理ソフトウェアで、サーマルカメラが検出している間、このソフトウェアは車両、目的地の統計、移動時間、赤の到着を分析する。この分析データで都市交通の流れを改善するための措置を講じることができる」と説明している。

2020年に関しては、北米のセキュリティ産業従事者は不確実性に見舞われるだろう。また、進行中の米中貿易紛争と米国大統領選挙によって成長が妨げられる経済環境が生まれる恐れがある。

これについて、クック氏は「2020年は米国の大統領選挙の年であり、歴史的に見てビジネスは低迷する。その主な理由は多くの大企業にあり、選挙が終わるまでの支出を控えめにするが、これは選挙が終わる11月まで続く。仮に選挙がなくても、ほとんどの金融アナリストは景気後退を予測している。米国人は不況がない最も長い時間枠にいるので、もしそれが起こると、それは経済全体に影響を与えるだろう」と警戒している。

ただし、ほとんどのセキュリティ産業従事者は、少なくともセキュリティに関する限り、現在の成長傾向は続くと考えている。マテス氏は、「全体的な減速の懸念を聞いたが、おそらく2020年に2020年の支出の減速を示すような態度で顧客が行動することはない」と見ている。

ガンドラック氏は「経済制裁は、成長に大きな影響を与える可能性のある行動の一つだ。フリーア社では、当社の製品のほとんどを社内設計および製造しており、現在または予想される制裁の影響を受ける構成部品を使用していない」と述べている。



Hanwha テックウイン米国社  
営業担当上級副社長  
トーマス・クック氏



フリーア・システムズ社  
セキュリティ担当副社長兼部長  
ダニエル・ガンドラック氏



Sエラ・オートメーション社  
部長ソヴァン・ホク氏

## EMEA

EMEAはもう一つの成長市場であり、エンドユーザは両方のセキュリティに投資し続けている。





MOBOTIX社CEO  
トーマス・ローステン氏



アデムコ・セキュリティ・グループ社  
グループ戦略担当取締役  
パトリック・リム氏



Convergentテクノロジーズ社  
上級副社長マイク・マテス氏



マイルストーン・システムズ社  
EMEA地区副社長  
マロウ・トフト氏

## セキュリティおよび非セキュリティ目的

世界銀行によると、EMEAの経済は、2020年に欧州で2.7%、中東および北アフリカで3.2%成長すると予測している。この成長率には、この地域での企業の業績を反映している。「国によって異なるが、この地域では平均で8~9%の成長率に達し、一部の地域は最大18%まで成長している」とMOBOTIX社CEOトーマス・ラウステン氏は述べている。

セキュリティとサイバーセキュリティを維持するソリューションの必要性が引き続き市場を牽引している。「セキュリティとサイバーセキュリティについては、安全性の低いハードウェアの導入、および地政学的状況の悪化への対応などにより、2018年に重要性が増した。上記の状況は今後数年間でセキュリティ業界に大きな課題をもたらすと考えられるが、セキュリティ市場が2桁の成長率を達成する上では効果的だろう」とラウステン氏は述べている。

サイバーセキュリティに密接に関連しているのはプライバシーの問題である。GDPRの採用により、GDPR認定を受けている製品およびソリューション提供企業は、市場での競争力を高めている。

マイルストーン・システムズ社EMEA地域担当副社長マロウ・トフト氏は、「VMSがGDPRに準拠していることを確認するためにかなりの時間を費した。非常に人気のあるEuroPriSeがGDPR対応認証を取得した最初のVMS製品であることを誇らしく思っている」と語っている。これは、XProtect Corporate 2019 R2

がEuroPriSe(欧州プライバシー・シール研究所)の発行しているGDPR対応認証を取得したことを指している。

さらに「GDPR対応認証を得たことで、エンドユーザは、GDPR準拠のVMSシステムで構築することが適切な基盤だと確信することができる。また、当社では、監視担当者がGDPR計画と対処方法を確実に把握できるようサポートしている。具体的には当社はトレーニングを提供しているので、セキュリティ担当者が実行方法を知らない場合には、全ての担当責任者が何を知っておくべきかを学ぶ環境を提供している」と付け加えている。

## 非セキュリティ用途

セキュリティは別にして、業種をまたがるエンドユーザの増加により、セキュリティ以外の用途にシステムを利用することが多くなっている。

「一般的に、エンドユーザは自分が持っている特典をより意識するようになっており、ROI(費用対効果)はもはやセキュリティだけにに基づいているのではなく、データ活用や情報共有さらに統合ソリューションなどを全て考慮に入れている。セキュリティ需要の増加に加えて、機器の有する高品質の画像処理を使用すると、売上げの増加や生産性と情報の面での損失の制限に役立つ」とトフト氏は話し、これを次のような例で説明している。

「例えば、多くの国では、電車の時刻表などの公共交通機関の時刻表を作成する方法は、多くの場合手動で収集した履歴情報または小さなサンプル情報に基づいている。匿名化された映



像メタデータを使用すると、人の密度が高い場所と時間を追跡できるため、列車時刻表をより効果的に計画することや、データを活用することができる。これは、自動化でかつ正確にできる工程の1つに過ぎない。さらに同氏は、「私たちの地域には、店舗で新しいコンセプトをテストしている小売チェーンがある。店舗のレイアウト全体をやり直すには多大なコストがかかることが明白なため、代替レイアウトを行う2つか3つのパイロット店舗を用意し、センサとカメラを使用して動線と顧客の動きを確認して、新しいレイアウトを確認している。基本的に、映像データは、全国的な新しいコンセプトを展開する前に、プロトタイプを実験およびテストするのに役立つ。そうすることで、影響の大きい決定事項に自信を持つことができる」。

## APAC

APACの場合、成長の規模は国により異なるが、数力国で成長している。ベトナム、フィリピン、インド、インドネシアでは好調な市場に支えられて、二桁台前半の成長が見られる。

アダムコ・セキュリティ・グループ社グループ戦略担当取締役パトリック・リム氏は、次のように述べている。

「香港は経済が内部問題から大きな打撃を受ける可能性が高いことから、奇妙な現象になるが、多くの社会基盤の損傷により、セキュリティの代替案件は実際にセキュリティ業界に若干ながら後押しする可能性がある」。

ジェネテック社APAC常務取締役ダニエル・リー氏は「APAC地域では、収益が22.5%増加した。具体的には、オーストラリアの輸送、データセンター、公共安全、法執行機関で大きな成功を収めている。インドでは、ビルや産業の顧客との連携が増えているが、ASEANでは、BPO(Business Process Outsourcing)、石油とガス、病院、空港で大きな成功を収めている。

主な成長牽引には、地方自治体によるスマート・シティの建設、様々な社会基盤事業案件、地域の一般的な建設ブームが含ま

れている。特定の基準に従うことを建物と施設に要求する政府の規制も重要な役割を果たしている。

Sエラ・オートメーション社部長ソヴァン・ホック氏は「セキュリティの主な成長要因は、高層ビルやコミュニティ・モールなどの公共区域用に設定した政府の規則と規制だ。多くの高層ビル、ホテル、住宅開発事業を抱えている。高層ビル、ホテル、コミュニティモール、官公庁ビルの成長に伴い、建設はセキュリティ要求の主要な分野だ」と指摘している。

一方、リム氏は「米中貿易戦争は、中国のセキュリティ市場の成長に影響を与える重要な問題だ。社会政治的な不安や貿易の緊張が高まった場合、投資に対する信頼は低くなり、アジア全体に広範な影響を与えることになる。2019年半ば以降、米中貿易紛争により多くの問題があった。不確実性は確かに市場を大幅に減速させた。2020年には、より多くの中国製品が検査対象となっており、案件のコストと調達のコストに影響を与えるため、依然として多くの不確実性が存在する」と懸念を示している。

# 2019年は期待を上回ったが、 映像監視事業の需要構造は不均衡

メモリー社の物理セキュリティ事業に関する2019年の年次報告書は、2019年の工場出荷価格での物理セキュリティ製品の世界生産総額が3,431億ドルであり、2018年から8.5%増加したことを示し、過去5年間の平均年成長率は7.24%だった。



●メモリー・リサーチ社取締役  
アラン・マッケール氏 著

2012年から2017年までの世界GDP成長率は平均で約2.7%だったことを考慮すると、これは著しい成長であり、物理セキュリティ産業市場の成長率はGDP成長率の2.6倍になる。過去10年間で、市場は年平均成長率6.27%を示している。市場は、2024年に年平均成長率10.72%で56.76億ドルに達すると予測

されているが、3つの分野(アクセス・コントロール、映像監視、侵入者検知)や地域各地ごとに大きく異なる成長率を見込んでいる。

欧米メーカーが中国メーカーとの競争に対抗したため、映像監視は過去3年間で9.74%の最高成長率を示したが、中国の公共部門事業に参入することができる可能性はまだほとんどない。中国は、推定では世界需要の35~40%を占める最大の

単一市場だ。

アクセス・コントロールは、IPネットワーク事業をさらに拡大し、生体認証、ID管理、ワイヤレス・ロックシステム、ACaaSにまで領域を広げたため、8.2%よりわずかに高い実績を上げることが期待されていた。これは、3分野の中で最も高い成長率を



3年連続で達成したものの、価格への圧力は、部分的にはシステム統合とサプライ・チェーンでの弱体化により影響が出始めている。これにより、測定値の成長を押し下げている。

物理セキュリティ事業の柱である侵入者検知分野は成熟してから長い年月を経ているが、レーダ、熱センサ、マルチ・センサ・カメラの使用の増加が、2019年の3.8%の成長に寄与した。さらに、さらに、センサ技術やワイヤレス技術、ビデオ監視やアクセス・コントロール、さらに屋外照明などのあらゆる統合が、成長を後押ししている。

映像監視事業の需要構造は不均衡で不健全だ。本報告書では、海外メーカが中国市場に参入するための問題は技術や性能にあるのではなく、本質的には政治的および地政学的な課題であることを示している。

その理由は、共産党が民間の映像監視メーカに対してかなりの圧力を持ち、今日では中国の映像監視の50%以上を占めている公共事業への参入を希望し長期の安価なローンの支援を受ける場合は、中国各省の条件と要求に従う必要がある。

これにより、各省は、外国メーカ製機器が公共部門の事業案件で採用されないことを保証している。この対応が「開放された取引」の可能性を歪め、さらに中国メーカHikvision社とDahua社の2社が世界の映像カメラ市場の40%を占める結果を招いている。その背景には、生産台数が少ない他社が実施できなかった価格引き下げという手段で、上述の2社が「最低価格での競争」を運営している。

ただし、この「まやかし」を突く可能性がある。中国国内には、公共部門の安全都市事業への大規模な投資の一部の獲得を望んでいる中国企業がある。世界最大通信企業の1社であるHuawei社は映像カメラ市場参入を発表し、AI映像解析の新興企業Megvii社が映像監視ソリューションを提供する予定だ。同社が最終的に公共部門市場に定着し、現在の二大巨人企業からシェアを奪取することは間違いない。これにより、少なくともより開かれた世界市場で事業展開している非中国系メーカへの圧力を軽減することができるだろう。

## 2024年までの市場予測

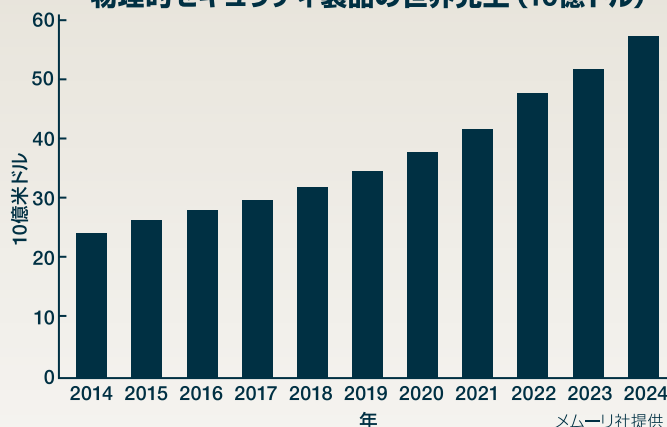
2024年までの今後5年間の予測では、今後2年間は世界貿易に改善はなく、GDPの成長がほとんどないことを考慮している。過去5年間は、新技術が製品性能を向上させ、TCO(総所有コスト)を継続的に削減しているため、物理セキュリティ事業は、業績不振の経済環境下でも堅実な成長を達成できることを示している。

テロ活動が今後5年間で鎮圧される可能性は低く、これに対抗するための政府予算が増加し、結果として物理セキュリティ事業に利益がもたらさざらう。商業界市場では、物理セキュリティ事業と企業における3つの分野(アクセス・コントロール、映像監視、侵入者検知)での包括的な接続性に対する需要が、IoT技術によって支援されて成長している。これは2020年末までに明らかになり、その後4年間で確実に成長が加速するだろう。

2019年から2024年までの今後5年間は年平均成長率10.7%になると予測している。主な推進要因は、今日のごくわずかな規模から2024年末までに35億ドルの可能性に加速するAI映像分析ソフトウェアで、より多くの映像監視ハードウェアに対するさらなる需要を生み出している。

本稿は、メモリー社発行「物理セキュリティ産業 2019年-2024年次報告書第11版」から引用している。

2014年から2024年の  
物理的セキュリティ製品の世界売上 (10億ドル)



# セキュリティの 次のビジネス・チャンスは何か？

セキュリティ業界はかつてないほど競争が激しくなっているが、システム構築者とエンドユーザの様々なニーズを満たす高度なソリューションを提供している企業は、今なおチャンスをつかんでいる。

●ウィリアム・バオ 著

これらのビジネス・チャンスとしては、AI、エッジ・コンピューティング、サイバーセキュリティ、および下記に記述した高度な先端技術がある。

## AI

機械学習やディープ・ラーニングまたはAIに基づく解析は、用途がますます多様化して広範囲になっているのが際立った動向だ。

Avigilon社国際マーケティング&コミュニケーション担当副社長アレックス・アズノヴィッチ氏は、「AIの役割は、セキュリティにおいて変革を続ける。AIは、最も重要なことに人間の注意を集中させることで、セキュリティ・システムの有効性を劇的に向上させている」と語り、さらに「高解像度の画像処理が今日の監視カメラの典型的な特徴となったと同時に、AI技術の大きな価値は、現在および将来のセキュリティ・システムのコア・コンポーネントとして位置付けている。真の映像コンテンツ検索、リアルタイム

アラート、自動化の提供により、当社は、現実世界の課題の解決に役立つ効果的なセキュリティ・ソリューションを提供している」と語っている。

ジェネテック社APAC地域担当常務取締役ダニエル・リー氏は、「当社では、データ自体に存在する機能間の傾向と依存関係の特定に依存する専用ソリューションにディープ・ラーニングを積極的に使用している。ALPR(自動ナンバープレート読取)システムであるAutoVuでディープ・ラーニングを使用して、ナンバープレート・タグの読み取りの正確性と信頼性を高めている。コンピュータ・ビジョン・アルゴリズムを適用することで、交通取締官が対象車両を特定して停止する際の誤検知読み取りを大幅に削減した」と強調している。

## エッジでのコンピューティング

最先端のコンピュータ用半導体技術の進歩とAIアルゴリズムの改善により、これらのAIカメラがますます利用可能になった。



Avigilon社国際マーケティング&コミュニケーション担当副社長  
アレックス・アズノヴィッチ氏



Gallagherセキュリティ社  
英国&欧州地区責任者  
リチャード・ヒューソン氏



IDIS社国際事業部門社長  
ジューン・ジュン氏



Allegion社上級副社長兼  
顧客&デジタル総責任者  
トレーシー・ケンプ氏

アクシス・コミュニケーションズ社CEO兼社長レイ・モーリソン氏は「高性能のチップセットを継続的に開発することで、データの収集場所に近いネットワークの『エッジ』でデータを処理できる製品を製造することができる。監視業界の場合、これはデータがカメラ自体の中で処理されていることを意味する。これにより、帯域幅を削減することができ、転送とストレージだけでなく、大規模なスマートシステムを効率的に展開することもできる。さらに、データを転送する前に匿名化および暗号化して、セキュリティとプライバシーの問題に対処することもできる」と述べている。

IDIS社国際事業部門社長ジューン・ジュン氏は、「当社は、多くの顧客がサーバとITセットアップの複雑さと関連性を、特に中小企業では望んでいないことを、映像技術企業他社より詳しく知っている。アップグレードが必要になった時、他社は古いアナログ・システムと同様に機能するが、ユーザはネットワーク監視の全ての利点を備えたIP CCTVを望んでいる。これはディープ・ラーニング解析にも同じことが言える。当社は現在、より正確なタイプの映像解析を可能にし、最先端のディープ・ラーニング・アプリケーションを可能にする5MP AIカメラの導入に取り組んでいる」と説明する。

## サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティは新しいものではないが、相変わらず物理セキュリティ産業と関連がある。そのため、ソリューションを

強化し、サイバー攻撃から保護されていることを証明できる提供企業は、システム構築者とエンドユーザから多くのビジネス・チャンスを見つけることができる。

増え続けるサイバー攻撃の脅威は、多くの企業の最前線で重要な存在だ。クライアントのネットワーク上に存在する、より堅牢なソリューションに対する需要により、さらに優れたソリューションを特定することが求められている。

Gallagherセキュリティ社英国&欧州地域責任者リチャード・ヒューソン氏は、「データセンター、複雑な製造、金融市場などの成長分野は全てこれらの脆弱性に対処している。システム防御は、何かか正しくないと感じるかどうかを知る必要がある。Gallagher Command Centerが暗号化されたエッジ・デバイスを絶えずポーリングすることは、発生する可能性のある異常を把握し、これらのイベントを適切なチームに報告することを意味している」と述べている。

ローカルまたはクラウドを活用してシステム費用を削減し、通信を改善するかどうかに関係なく、映像管理ソフトウェア(VMS)のサイバー・セキュアな製品は、脅威環境が進化し続けるにつれて、これまで以上に重要になっている。

アリコント・ヴィジョン・コースター社/コースター・テクノロジーズ社マーケティング担当副社長ジェフ・ホイットニー氏は、「ローカルまたはクラウドを活用してシステムコストを削減し、通信を改善するかどうかにかかわらず、映像管理ソフトウェアでのサイバーセキュアな提供は、脅威環境が進化し続けるにつれて、こ





ジェネテック社APAC担当  
常務取締役ダニエル・リー氏



ASSA ABLOY社EMEA地域  
マーケティング&コミュニケーション  
担当部長トーマス・シュルツ氏



HIDグローバル社ASEAN地域  
アクセス・コントロール・ソリューション  
担当営業部長アレックス・タン氏



Vanderbilt社マーケティング・コミ  
ュニケーション主管  
ロス・ウィルク氏

れまで以上に重要になっている」と話している。

Vanderbilt社マーケティング・コミュニケーション責任者ロス・ウィルクス氏は、「製品設計と開発の極めて初期段階では、『設計によるセキュリティ』と呼ばれる技術が、研究開発部門全体でサイバーセキュリティプロトコルを標準化するために使用されている。製品が供給開始されると、当社は引き続き脆弱性テストで発見された潜在的な脆弱性に対処している。これには、システムの接続、侵害、無効化の可能性があるサイバー攻撃のタイプの分析が含まれている」と述べ、「当社は、IP通信パスの安全な監視と制御を可能にする、マルチパス、多重冗長、高度に暗号化された通信プロトコルであるFlexible Secure Communications Protocol (FlexC)も実装している。このプロトコルは、サイバーセキュリティのみを念頭に置いてゼロから構築した」と付け加えている。

また、Allegion社上級副社長兼最高顧客兼デジタル主管トレーシー・ケンプ氏は、「セキュリティ態勢を継続的に改善するということは、製品にセキュリティを組み込み、考え方を変えることを意味している。一部のチームは、リスクを軽減するためのアジャイルゲームであるProtection Pokerを使用して、アプリケーション機能に関連する潜在的なリスクを評価し始めている」ことを紹介し、「サイバー・レンジのコンテストでは、ゲーミフィケーション、意図的に脆弱なアプリケーション、および実際のハッキングのためのWebサイトを使用しているチームメンバーは、シミュレーションのアプリケーション要素を積極的に活用することにより、アプ

リケーションがどのように攻撃されるかを学ぶ。市場で最新のツールを採用し、サイバーセキュリティの知識と機能を構築することにより、当社は安全で回復力のあるオペレーティング環境を促進できる」と付け加えている。

様々なソースからトレーニングや分析の目的でデータが収集されているため、AIとサイバーセキュリティに密接に関連するのはプライバシーだ。このデータを安全かつ非公開に保つ方法は、重要な要素となる。

HIDグローバルASEAN地域アクセス・コントロール・ソリューション担当営業部長アレックス・タン氏は、「業界は厳格な会議にベストプラクティスを採用しているため、GDPRおよびその他のプライバシー・ガイドラインでは、信頼できるIDソリューションがますます多くの新しいタイプのデータを取り込み、よりインテリジェントな認証決定を下し、ユーザ・エクスペリエンスを最適化するためのトレーニングを行うため、新たな問題に対処する必要がある」と話している。

### アクセス・コントロール

アクセス・コントロールに関しては、IoTと接続機器が生成するデータのおかげで、機会も多くある。「ユーザがスマートフォンを紛失または交換する必要がある場合にモバイルIDの補充を提供するアクセス・コントロールサービスなど、より柔軟な新しいサブスクリプション・モデルがある。アクセス・コントロール・システムとスマート・ビルディング用途やサービス、IoTユースケースと





の間の統合の障壁を取り除くことにより、より接続されたシームレスなビルディング・エクスペリエンスをユーザに作成する機会がある。また、機械学習分析を使用してセキュリティを向上させ、ユーザ・エクスペリエンスを個別化し、事業上の意思決定を改善することにより、今日のアクセス・コントロール・ソリューションから貴重な洞察を生成する機会がある。成長するポートフォリオを使用して、これらの各機会などを追求している。

一方、ワイヤレス・ソリューションは、引き続きアクセス・コントロールの機会をもたらす。「売り上げに大きく結び付く主な傾向は、アクセス・コントロール用のワイヤレス・ソリューションの急速な成長の継続だ。

ASSA ABLOY社 EMEA 地域 マーケティング&コミュニケーション部長 トーマス・シュルツ氏は、「当社の最新調査報告書『ワイヤレス・アクセス・コントロール・レポート』に収録されたデータは、ここに関連している。レポートのために投票した設置者とシステム構築者の4分の3がワイヤレス・ソリューションの設定が実に簡単に迅速で費用対効果が高いことに賛意した。市場はこれらの利点をますます理解し、売上の増加に反映している」と述べている。

## 侵入検知

侵入検知の分野では、光ファイバ技術は、フェンスに取り付ける境界検知用途と埋設する境界検知用途の両方で引き続き人気がある。「Magal/Senstarは最近、より小さな境界用にFiber Patrol FP400光ファイバゾーン報告侵入検知センサを導入した。

Magalセキュリティ・システムズ社CEOドゥロル・シャロン氏は、次のように述べている。「各プロセッサは、最大4つの検出区域を提供し、非検知のリード・イン・ケーブルをサポートしている。FP400が、SenstarのFiber Patrol製品ファミリに加わった。この製品群には、あらゆるサイズのサイト用のフェンスに取り付けられた侵入検知オプションと、埋設オプションが含まれている。この製品群は、国境や埋設パイプラインなどの高度な侵入検知システムによる長距離セキュリティに最適だ」。

## 情報を追加して効率を改善

昨年、セキュリティ・ベンダーは、業種を超えた複雑な事業案件に参加してきた。これらの案件では、エンドユーザは、セキュリティとセキュリティ以外のニーズ(プロセスや効率の改善など)に対処することを目指している。

## 小売

例えば、小売業では、店舗のレイアウトを最適化し、競争が激化する中でより良いショッピング体験を提供するために、店舗所有者は顧客の行動を常に把握する必要がある。これには、人数カウントやキューの管理など、様々な種類の映像分析が役に立つ。さらに、POSに統合された映像は、実際に店舗を訪れた訪問者数を判断するのに役立つ。小売業者がより良い販売およびマーケティング戦略を見つけ出すのに役に立つ。

また、顧客が製品を一層利用できるようにする統合ソリューションもある。

Identiv社部長マーク・アレン氏は、「当社は、特殊なボトル・クロージャを製造するLes Bouchages Delage社とのパートナーシップの拡大を発表した。当社はもともと同社と共同で活動していた」と述べ、さらに「具体的には、高級コニャック・ブランドのインテリジェントNFCクロージャを作成する際に彼らと協力していたが、現在ではNFC技術をより幅広いLes Bouchages Delage社キャップに取り入れている。ここでの考え方は、消費者が自分の製品、ワインのボトル、またはスピリッツをよりよく利用できるようにすることにある。消費者はAndroidまたはiOS機器をボトルのキャップでタップして、購入を簡単に登録し、特別サービスを受け取ることができる。それは、顧客との絆を強めるために先端技術の使用を拡大することだ。これは誰にとっても価値がある」と続けている。

## ユーティリティ/製造

次に、ユーティリティと製造業では、システム運営者は検査品質管理と予防保守のために、他のファクトリ・オートメーション・システムと統合された映像にますます依存している。



フリーア・システムズ社部長兼セキュリティ担当副社長ダニエル・ガンドラッハ氏は、「今日、電力会社は、温度監視ソフトウェアと統合された予測保全のために、境界保護に当社のサーマル・セキュリティ・カメラと、当社の放射温度計カメラを使用し始めている」と説明し、「施設管理者は、ソフトウェアからのデータを使用して、機器を遠隔で検査し、燃え尽きる前に過熱の危険がある資産を特定できる。その結果、顧客にとって大幅な節約になっている」と話している。

IDIS社ジュン氏は、「特に困難な用途の1つでは、システム運営者がリアルタイム映像画像とクレーンの動作を正確に同期するために、IDIS社製監視を遠隔操作のブリッジ・クレーンと統合する必要がある」と話し、「カメラの視界はレーザ位置決めシステムと整合しなければならず、新しいシステム全体は、サイトの年間メンテナンス20日間にわたるシャットダウンの厳しいウィンドウ内に展開する必要があった。現在、システム運営者がクレーンを制御すると、システムはカメラのプリセット間でビューを自動的に切り替える。IDIS社製リアルタイムIP映像伝送により、クレーンの動きを遅延なく最適化できる。その結果、性能と安全性が向上しただけでなく、全ての工程が完全な視覚的監査証跡によって裏付けられた」と説明している。

## 交通/スマートシティ

輸送では、交通の流れをスムーズにしたり、他の管理タスクを実行したりするために、セキュリティ機器がよく使用されている。例えば、交通管理システムと統合されたカメラにより、自己適応型の信号機で現在の交通状況に基づいて赤信号または緑信号の長さを調整したり、システム運営者がより良い輸送計画を立てたりすることができる。

フリーア・システムズ社部長兼セキュリティ担当副社長ダニエル・ガンドラッハ氏は、「走行状況を向上させるために、交通管理ソフトウェアであるAcyclicaを使用してサーマルカメラを展開している都市の例を見てみる」と話し、「サーマル・カメラは車両を検出し、ソフトウェアは目的地の統計情報、移動時間、赤ま

たは緑のライトの表示を分析する。このデータは全て、都市が交通パターンと混雑を理解するのに役立ち、交通の流れを改善するための措置を講じることができる」と解説する。

## 会場管理

アクセス・コントロールを他の技術と統合して、セキュリティだけでなく管理を強化することができる。

Vanderbilt社マーケティング・コミュニケーション責任者ロス・ウィルクス氏は、同社がACT365クラウドベースのアクセス・コントロールおよび映像管理ソリューションをローンテニス協会(LTA)の支援に使用した例を挙げた。ローンテニス協会(LTA)は、できるだけ多くの人を毎日テニスコートに案内して、施設の使用を最大限にしたいと考えていた。ACT365ソリューションはSportlabsの会場管理ツールであるClubSparkと呼ばれるプラットフォームに統合した。単純なプロセスでテニスコートを予約でき、ユーザーは特定の施設(またはそれらのチェーン)内のドアの状態を分析するための遠隔管理コントロールを使用できる。

ウィルクス氏によると、「テニスプレーヤーは、モバイル機器からClubSparkを使用して予約を行い、支払いを行った後、ACT365にも通信されるPINコードを含むテキストメッセージを受け取る。プレーヤーがコートに到着すると、コートゲートを開く読取機にコードを入力する」だけの手順で済むと話している。

**AKS**



# セレクトショップのSHIPS、 イーグルアイネットワークス製 クラウド型映像監視システムを導入

## 【老舗セレクトショップSHIPSとは】

衣類や小物などを販売するセレクトショップの草分け的存在である株式会社シップス(SHIPS)は、1坪半の「ミウラ」として東京上野のアメ横での開店からスタートし、1975年には「ミウラ&サンズ」を渋谷にオープン。その後、1977年に「ミウラ&サンズ」を大元とした「SHIPS」1号店を銀座で開店しました。

現在ではSHIPSブランドで名古屋、札幌、仙台、神戸、大阪などをはじめ日本各地に進出して、現在全国に80以上の直営店舗を構えています。1990年には、自社による物流センターS.C.C(シップス・コントロール・センター)を開設しています。

# SHIPS

## 【従前の防犯システム】

SHIPSが採用していた防犯対策は、商品・在庫管理の目的で導入したRFIDタグとゲートによるEAS(万引防止システム)でした。しかし、防犯システムとしては、手間とコスト、煩雑な操作、さらに誤作動などの課題が生じていました。

そこで2014年にアナログ映像監視システムを導入することになりました。本システム導入にあたりSHIPSが要望した点は、「死角を減らして録画する」ことでした。導入したアナログカメラは店舗によって異なりますが、各店舗10台前後と録画データ記録用DVR1台でした。システム導入時にサポート契約を締結しましたが、契約期間に受けたサポート内容は故障機器の交換程度でした。

## 【アナログ監視システムの問題点】

当初導入したアナログ監視システムは、専用画面で確認するためのモニタと録画用ハードディスクなどの機器を各店舗のバックヤードに設置しなければいけませんでした。

また、運用管理やメンテナンスの点では、店舗に設置したカメラの故障や、録画機器の機能停止などが重なったこともあり

ました。さらに万引をはじめとする事件発生時に、スタッフが録画データを警察や保険会社などに提出するために、データを複製する作業が必要で、これがスタッフの負担と時間のロスを招きました。

このように様々な問題が発生してきたことで、2016年にSHIPSは監視カメラ・システムの刷新を決断したのです。

## 【次期監視システム選定時の条件】

SHIPS側は、システム提案企業に対して、店舗にハード・ディスク・ドライブ(HDD)を設置しないこと、ネットワーク帯域を使い過ぎないことという条件を挙げました。情報システム部課長の阿部一成氏はクラウド型システムの選定を第一条件に加えました。これには、限られたスペースのバックヤードだけでのシステム利用を避け、店内の販売用ネットワーク・システムへの負荷を軽減するという目的がありました。

複数の提案内容を検討した結果、採用したのはイーグルアイネットワークス社Eagle Eye Cloud VMSでした。

## 【イーグルアイ社Eagle Eye Cloud VMS】

Eagle Eye Cloud VMSを選定した決め手は、店舗にモニタもHDDも設置せず、映像送信時の帯域調整ができることでした。具体的な点について、阿部氏はクラウド型により、大規模な記録用ハードウェアを必要としない点と、在庫管理やPOSなどの既存のネットワークに影響しない通信帯域の点を挙げました。





## 【Eagle Eye Cloud VMSシステムの特徴】

Eagle Eye Cloud VMSは、映像データをバッファするブリッジ機能を備えています。帯域使用の少ない夜間に、バッチ処理でクラウドへデータを送信することができます。このため、新たなネットワークを用意するなどの対応が不要だった点が魅力的でした。さらに、主要監視カメラ・メーカーのカメラ・ドライバが用意されており、使用するカメラを選ばないのも特徴でした。

## 【導入効果】

Eagle Eye Cloud VMSシステムはSHIPS14店舗と物流センターS.C.Cに導入されていますが、システム推進課長の阿部一成氏は、導入効果として下記の項目を挙げています。

### ●クラウド上の映像とリアルタイムでのモニタリング

Eagle Eye Cloud VMSの導入により、店舗に設置された監視カメラの映像がクラウド上に保存されるようになりました。これにより本部からは全国各地に構えている店舗の現状をリアルタイムでモニタリングでき、一元監視できるようになりました。しかも、PCかモバイルのどちらからもアクセス可能で、いつでもどこでも複数ロケーションの一元監視ができます。

また、防犯以外にもカメラ映像で店舗状況を確認できるようになりました。これについて、何かあった場合でも基本的に本部側でサポートができる上に、一つの画面で店舗状況の監視も

できるようになったため、労力が減ったことも挙げています。

### ●高解像度映像での記録

鮮明な高解像度映像を記録することで、タグやゲートに頼らない防犯体制を構築できます。タグの管理だけでなく、万引や不正行為などの抑止、そして、万引被害の発生時の当局への証拠データ提出作業も不要になりました。

### ●設定が簡単で使いやすい

管理画面が使いやすく、表示項目のカスタマイズや『この店舗の映像だけを店舗の責任者に見せたい』といった権限の付与も容易に行えます。動体検知機能では、何かが動いていると検知して録画映像にフラッグが立ち、どのタイミングで誰が来たのかという詳細までわかります。

### ●システム運営の安定化

クラウドにデータを保存するため、HDD損壊時のメンテナンス費用がかかりません。また、カメラ本体の故障時でも、故障前の録画データはクラウド上に保管されるので安心できます。

## 【想定を超える導入成果】

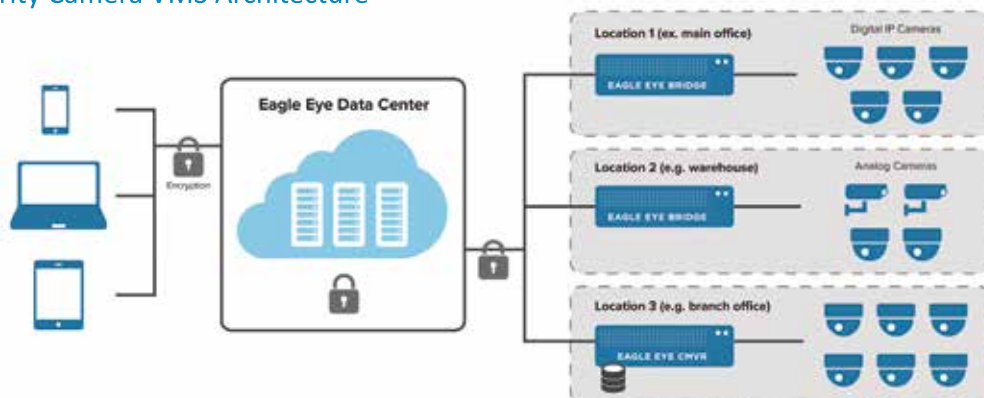
阿部氏は、描いていた導入効果だけでなく、想定を超える導入成果についても紹介しています。

### ●店舗スタッフの負担の軽減化

社内システム担当者の負担やシステム運営における手離れの

# クラウドセキュリティカメラVMSアーキテクチャー

Cloud Security Camera VMS Architecture



- ・アナログ&IPカメラをサポート
- ・ローカルバッファリング、モーション検知
- ・検知 & 暗号化
- ・セキュア、暗号化された映像 (インバウンドポートなし)
- ・通信帯域制御

- ・3重冗長性ストレージ
- ・100%ブラウザ/モバイルベース
- ・Eagle Eye パワードクラウド
- ・柔軟なストレージオプション

良さが良いということ。基本的に一度だけの店舗説明を行い、以降はシステム担当のサポートは不要になりました。また、何よりも大きかったのが店舗スタッフの心理的な部分だと付け加えます。「目に見えるものではないが、店舗スタッフが安心して働ける職場環境を整備できた効果も大きいと感じています」(阿部氏)。

## ●システム運営の効率化

運用コストの試算では、RFIDによる商品管理が副産物をもたらしました。RFID導入により店舗の棚卸し時間を70%削減することができ、棚卸しの時期を毎月1回にしたことで、監視映像保存期間も1カ月で済むことになりました。その結果、クラウドでの録画データ保存期間を短縮化できたことで、データ容量や課金料金が圧縮され、コスト削減にも繋がりました。

## ●店舗スタッフの働き方改革を実現

SHIPSでは店舗の従業員の働き方改革にも積極的に取り組んでおり、「テクノロジーを使って店舗運営をさらに効率化していくことは今後も重要なテーマ」を掲げています。その成果の一つとして、グランフロント大阪店では2017年2月に残業ゼロを達成しました。

## 【今後の展望:マーケティング分析などへの活用も】

阿部氏は、今後の展望としてカメラ映像の用途拡大を考えています。これまでの防犯目的での活用だけでなく、ピープルカウントや属性検知などマーケティング分野での活用を目指している。同一来店客の来店履歴、来店時の店舗内動線、購買履歴、

推定される属性などの分析などです。

これについて、阿部氏は現状では法規制の面でも難しい点を把握しています。個人情報保護法の範囲だけでなく、プライバシー保護の観点からも、より広範な配慮が必要になることです。マスキングや画像解析AIなどで個人を特定できない形で画像精度を変更して、「防犯とマーケティング分析の双方を、同一システムで実現したい」と阿部氏は抱負を語っています。

イーグルアイネットワークス社のEagle Eye Cloud VMSシステムは、導入したSHIPSに店舗内の映像監視によるセキュリティ・システムの提供だけでなく、店舗と倉庫管理の効率化を実現し、さらに企業の働き方改革というテーマについても一定水準以上の成果をもたらしました。SHIPSは、今後全ての店舗での導入を推進することで、前述の三つの導入効果を大きく全社的に普及させることができるでしょう。



## イーグルアイネットワークス株式会社

〒150-0034

東京都渋谷区代官山8-5

代官山8.5ビル4階

TEL: 03-6868-5527

E-MAIL: APACsales@een.com



## 2020年1月

## CES 2020

会期:2020年1月7日~10日

開場:10:00 - 17:00

会場:ラスベガス コンベンション&  
ワールド・トレード・センターなど  
8会場

米国ネバダ州ラスベガス

主催:Consumer Technology  
Association (CTA)URL: <https://www.ces.tech/>

## INTERSEC Middle East

会期:2020年1月19日~21日

開場:10:00 - 17:00

会場:ドバイ国際会議展示場  
アラブ首長国連邦ドバイ

主催:MESSE FRANKFURT

URL: <https://intersec.ae.messefrankfurt.com/dubai/en.html>

## 2020年3月

## SECURITY SHOW 2020

会期:2020年3月3日~6日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ1・2・3ホール

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/ss/>

## リテールテックJAPAN 2020

会期:2020年3月3日~6日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ1・2・3ホール

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

## フランチャイズ・ショー 2020

会期:2020年3月3日~6日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ1・2・3ホール

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

## INTERSEC Building

会期:2020年3月8日~13日

開場:10:00 - 17:00

会場:フランクフルト・メッセ  
ドイツ連邦共和国ヘッセン州  
フランクフルト・アム・メイン

主催:MESSE FRANKFURT

URL: [www.intersec-building.com](http://www.intersec-building.com)

## ISC WEST

会期:2020年3月18~20日

開場:10:00 - 17:00

会場:米国ネバダ州ラスベガスサンズエクスポ

主催:Reed Exhibitions

URL: <https://www.iscwest.com/>

## 2020年4月

## SECUTECH Expo 2020

会期:2020年4月22日~24日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:台北南港国際展覧館  
台湾台北市南港区経貿二路1号主催:Messe Frankfurt New Era  
Business Media Ltd.URL: <https://10times.com/secutech-expo>

## データセンター&amp;ストレージ EXPO

会期:2020年4月8日~10日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.japan-it-spring.jp/ja-jp/about/dse.html>

## クラウド業務改革 EXPO

会期:2020年4月8日~10日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.japan-it-spring.jp/ja-jp/about/cloud.html>

## IoT/M2M展

会期:2020年4月8日~10日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.japan-it-spring.jp/ja-jp/about/iot.html>

## オフィス セキュリティ EXPO

会期:2020年4月15日~17日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト 青海展示棟  
南展示棟

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.office-expo.jp/ja-jp/about/osec.html>

## OPTICS &amp; PHOTONICS

## International Exhibition 2020

会期:2020年4月22日 - 24日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:パシフィコ横浜

主催:OPTICS &amp; PHOTONICS

International Exhibition 2020

URL: <http://www.opie.jp/>

## 2020年5月

## SECUTECH INDIA 2020 &amp;

## Fire and Safety India 2020

会期:2020年5月7日~9日

開場:10:00 - 17:00

会場:ボンベイ・エキジビション・センター  
インド共和国ムンバイ市主催:Messe Frankfurt New Era  
Business Media Ltd.URL: <http://secutechexpo.com/index>

## ワイヤレスジャパン2020

会期:2020年5月13日(水)~5月15日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト 青海展示棟 Aホール

主催:リックテレコム/日本イー・ジェイ・ケイ

URL: <https://www8.ric.co.jp/expo/wj/>

会期:2020年5月13日(水)~5月15日

## ワイヤレス・テクノロジー・パーク

会期:2020年5月13日(水)~5月15日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト 青海展示棟 Aホール

主催:国立研究開発法人情報通信

研究機構(NICT)、

YRP研究開発推進協会、

YRPアカデミア交流ネットワーク

URL: <https://www.wt-park.com/2020/index.html>

## 2020年8月

## SECUTECH Vietnam 2020

会期:2020年8月20日~22日

開場:10:00 - 17:00

会場:サイゴン展示会議場

ベトナム社会主義共和国ホーチミン市

主催:Messe Frankfurt New Era  
Business Media Ltd.URL: <https://secutechvietnam.tw.messefrankfurt.com/hochiminhcity/en.html>

## 2020年11月

SECUTECH Thailand 2020 &  
Fire & Safety Thailand

会期:2020年11月25日~27日

開場:10:00 - 17:00

会場:バンコク国際貿易展示場(BITEC)

タイ王国バンコック市

主催:Messe Frankfurt New Era  
Business Media Ltd.URL: <https://secutechthailand.tw.messefrankfurt.com/bangkok/en.html>

青色文字の海外展示会についてはASJ合同会社までお問い合わせください。

赤色文字の展示会への出展についてはASJ合同会社が出展申込取り扱いを行なっています。

## ■お問い合わせ先

ASJ合同会社

TEL:03-6206-0448

E-MAIL: [komori@asj-corp.jp](mailto:komori@asj-corp.jp)

## 日本人の好む性善説を嘲笑している事件

日本人は馬鹿正直で人間を性善説でしか見ていない点を衝いたのが、今回発生した外国人被告の保釈中の日本脱出だろう。海外では、刑事被告人に対してGPS機器の装着を義務付けている例も多いと言われている。また、24時間監視を実施している事例もあるようだ。

ところが、我が国では被告人の人権を盾に、弁護士や人権活動家といわれる優秀な方々がGPS装着や24時間監視をかれらの基本的人権を擁護するために拒否している。刑事被告人が一般人と同等の全ての権利を要求すること自体が大きな誤りである。つまり、人間は全て本来「性善」だという考えは宗教上ではともかく、一般社会では成立しないことは自明だろう。

このような考え方に基づいてセキュリティ・システムを構築したら、そのシステムは何の役にも立たない。これについてはセキュリティ産業従事者の方々の多くは理解しているだろうが、一部でも緩いシステム構築であったならば、その実効性は惨憺たるものになることが露見した何よりの事例だろう。

しかし、これは被告人や犯罪者に対する行動であり、国家権力が全国民を24時間365日監視し追尾することとは全く次元が違う。ともすると日本という国家は、諸外国との外交においても「性善説」に基づいた判断や行動を取りがちだが、極論で言えば、被告人や犯罪者そして外交では「性悪説」に基づいて、自国の利益を守ることを第一義に考えるべきだ。

(東京 警備業)

## 空港が国境警備対象地域であることを軽視していた法務省と国土交通省

2019年末に起きた世間を驚愕させた元某企業CEOの日本脱出劇。一言で言えば、ザルの警備体制だったと指摘されても反論の余地がないレベルだった我が国の出入国管理体制。一般国民は日本の行政政府がこんなにもお粗末な管理をしていたことに怒りを禁じえない。その責任は、出入国を管轄する法務省なのかそれとも空港設備を管轄する国土交通省なのか。今回の事件から明らかになったのは、双方の不手際そして不備としか言いようがない。

今回の事件は、自家用飛行機による出入国および物品の般出入を軽視していた弱点を衝かれたことが全ての原因だろう。つまり、自家用飛行機を利用すれば、薬物や兵器または国家機密や禁輸品だろうが持ち込みと持ち出しが野放図に行なうことができるという事実が明らかになった。

日本が国家としての安全と法の遵守を堅持するためには、海外諸国が実施している検査体制をもっと調査研究して、最先端の警備体制を確立しなければならない。これは国を守る上で当然の措置であり、国家の国民に対する義務であることを政府および行政機関は肝に銘じるべきだ。

(神奈川 システム構築)

## 「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティ・システムを既に導入あるいは導入を予定している側、いずれの側からの応募をお待ちしています。ただし、特定企業や団体または個人に対する誹謗中傷または批判的な内容をご遠慮ください。

一例を挙げると、導入する場合の手順はどのように進めれば良いのか。導入前の事前説明についてはどこに相談すべきなのか。メーカーなのか販売会社なのか、システム構築企業や設置施工企業なのか、それともセキュリティ・コンサルタント企業なのか。セキュリティに関する疑問や意見また提案など、セキュリティ関連であれば詳細は問いません。掲載する場合は匿名扱いとしますので、個人情報情報が漏洩することはありません

なお、具体的な導入相談については、導入条件や環境についてできるだけ具体的な内容をご連絡ください。ご応募をお待ちしております。



a&s JAPAN編集部

TEL : 03-6206-0448

FAX : 03-6206-0452

MAIL : info@asj-corp.jp

第28回 セキュリティ・安全管理総合展

# SECURITY SHOW 2020

今年は  
幕張メッセで開催!



## 社会やビジネスを守るセキュリティが一堂に集結!

### 2020年3月3日(火) ▶ 6日(金) 幕張メッセ[1・2・3ホール]


10:00 ~ 17:00 (最終日は16:30まで)

**主催** 日本経済新聞社

**入場料** 3,000円(税込み) ウェブサイトの来場事前登録で無料

詳細と入場が無料になる来場事前登録は  
[www.securityshow.jp](http://www.securityshow.jp)


展示分野


 ビル・商業施設・工場などの  
統合セキュリティ


 テロ対策、  
警備用品


 文書管理

 入退管理、  
バイオメトリクス

 情報セキュリティ・  
IoTセキュリティ

 災害対策、停電対策、  
事業継続(BCP)

 ホームセキュリティ、  
防犯グッズ

 防犯カメラ、  
映像セキュリティ

 映像解析、  
画像認識、AI技術

 店舗・  
オフィスセキュリティ

 防犯建物部品、  
錠前・鍵

来場対象

企業：経営者、総務などの管理部門、情報システム、施設管理、安全・防災・リスク管理部門など  
公共機関：施設管理、環境安全、防災、危機管理、情報システム、警察、消防、防衛、教育機関、病院、医療機関など  
オフィスビル・商業施設・ホテル・マンションなどの施設を所有する方、施設の建設、管理会社など  
警備会社、セキュリティ製品の開発、販売、設置、工事に携わる方など

**NIKKEI  
MESSE**  
街づくり・店づくり総合展

海浜幕張駅からSECURITY SHOWの会場まで、便利な無料巡回バスを運行します